

大阪大学人間科学部

学生便覧

令和6年度（2024年度）

令和6年度 人間科学部・人間科学研究科 学年暦（行事予定）

年	月	日	曜日	学期	事 項
令和6 (2024)	4	1	月	春 学 期	学部新入生履修指導
		2	火		入学式
		3	水		大学院新入生履修指導
		10	水		春学期授業開始
		11	木		課程博士論文題目届提出期限（17時）
		中旬			春学期開講（ターム科目）、夏学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、通年開講、夏季集中講義開講の授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
		下旬			春学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、通年開講の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
	5	1	水	夏 学 期	いちよう祭準備（5月1日） 授業未実施日（5月1日、2日） いちよう祭（5月2日、3日） いちよう祭片付け（5月4日）
		9	木		課程博士論文提出期限（17時）
	6	11	火	夏 学 期	春学期授業終了
		12	水		夏学期授業開始
		中旬			夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録変更期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
	8	下旬		夏 学 期	夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
		上旬			夏季集中講義開講の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録変更期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】
		7	水		夏学期授業終了
	9	8	木	秋 学 期	} 夏季休業（集中講義Aゾーン：8月26日～8月30日） （集中講義Bゾーン：9月 2日～9月 6日） （集中講義Cゾーン：9月 9日～9月13日）
		30	月		
		10	1		
	上旬		秋学期開講（ターム科目）、冬学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の各授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。≪注4≫】		
	中旬		秋学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】		
	11	1	金	秋 学 期	大学祭準備（11月1日） 授業未実施日（11月1日、5日）
		5	火		大学祭（11月2日～4日） 大学祭後片づけ（11月5日）
		13	水		卒業論文・修士論文・課程博士論文題目届提出期限（17時）
	12	2	月	冬 学 期	秋学期授業終了
3		火	冬学期授業開始		
上旬		冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録変更期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】			
4		水	課程博士論文提出期限（17時）		
下旬		冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。≪注4≫】			
28		土	} 冬季休業		
令和7 (2025)	1	5 日		冬 学 期	卒業論文・修士論文提出期限（17時）
	9	木	卒業論文・修士論文考査（学科目及び学系により日程が異なる）		
	上旬		卒業論文・修士論文考査（学科目及び学系により日程が異なる）		
2	7	金	冬 学 期	冬学期授業終了	
	中旬			大学院研究概要報告書提出期限（17時）	
3	25	火	卒業式・学位記授与式		

- 注 1. 行事予定は、都合により変更することがありますので、掲示に注意してください。
2. 上記の行事予定の詳細及びその他の行事の予定については、掲示により通知します。
3. 全学共通教育における行事予定と一致しない日程もありますので、注意してください。
4. 他学部等開講授業科目の履修登録・取消・変更期限は、このスケジュールとは別になります。必ずKOAN掲示を確認してください。

令和6（2024）年度 人間科学部・人間科学研究科 学年暦（授業スケジュール）

- 春学期授業開講期間（4/10～6/11）
※6/11は月曜日の振替授業・試験実施日とする。
- 夏学期授業開講期間（6/12～8/7）
※8/7は月曜日の振替授業・試験実施日とする。
- 秋学期授業開講期間（10/1～12/2）
※11/27は月曜日の振替授業実施日とする。
- 冬学期授業開講期間（12/3～2/7）
※2/5は月曜日の振替授業・試験実施日とする。

- 春、夏、秋、冬の各学期の区分ごとに開講：ターム科目
- 数字 ターム科目の授業日 試 ターム科目の試験日
 - 数字 セメスター科目の授業日 試 セメスター科目の試験日
- ・・・土・日・祝日及び休業日又は授業未実施期間を示す（緑字は祝日）。
 - ・・・夏季休業期間を示す。
 - ・・・大学行事又は入試準備のための臨時の授業未実施日（予定）を示す。
 - ・・・集中講義期間

令和6 (2024)年	日	月	火	水	木	金	土	
4月		学部別 履修指導 1	入学式 2	大学院新入生 履修指導 3	4	5	6	
	7	8	9	①① 10	①① 11	①① 12	13	
	14	①① 15	①① 16	②② 17	②② 18	②② 19	20	
	21	②② 22	②② 23	③③ 24	③③ 25	③③ 26	27	
	28	昭和の日 29	③③ 30					
5月				いちよう祭 準備 1	いちよう祭 2	憲法記念日 いちよう祭 3	みどりの日 いちよう祭 4	
	5	こどもの日 振替休日 6	④④ 7	④④ 8	④④ 9	④④ 10	11	
	12	③③ 13	⑤⑤ 14	⑤⑤ 15	⑤⑤ 16	⑤⑤ 17	18	
	19	④④ 20	⑥⑥ 21	⑥⑥ 22	⑥⑥ 23	⑥⑥ 24	25	
	26	⑤⑤ 27	⑦⑦ 28	⑦⑦ 29	⑦⑦ 30	⑦⑦ 31		
6月							1	
	2	⑥⑥ 3	⑧試⑧ 4	⑧試⑧ 5	⑧試⑧ 6	⑧試⑧ 7	8	
	9	⑦⑦ 10	⑧試⑧ 11	①⑨ 12	①⑨ 13	①⑨ 14	15	
	16	①⑨ 17	①⑨ 18	②⑩ 19	②⑩ 20	②⑩ 21	22	
	23	②⑩ 24	②⑩ 25	③⑪ 26	③⑪ 27	③⑪ 28	29	
	30	(注1) 6月11日は月曜日の振替授業・試験実施日						
7月		③⑪ 1	③⑪ 2	④⑫ 3	④⑫ 4	④⑫ 5	6	
	7	④⑫ 8	④⑫ 9	⑤⑬ 10	⑤⑬ 11	⑤⑬ 12	13	
	14	海の日 15	⑤⑬ 16	⑥⑭ 17	⑥⑭ 18	⑥⑭ 19	20	
	21	⑤⑬ 22	⑥⑭ 23	⑦⑮ 24	⑦⑮ 25	⑦⑮ 26	27	
	28	⑥⑭ 29	⑦⑮ 30	⑧試⑧ 31				
		(注2) 8月7日は月曜日の振替授業・試験実施日						
8月					⑧試⑧ 1	⑧試⑧ 2	3	
	4	⑦⑮ 5	⑧試⑧ 6	⑧試⑧ 7	8	9	10	
	11	山の日 振替休日 12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	集中講義（Aゾーン）						
		集中講義（Bゾーン）						
9月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	集中講義（Cゾーン）						
	15	敬老の日 16	17	18	19	20	21	
	22	秋分の日 振替休日 23	24	25	26	27	28	
	29	30						

令和6 (2024)年	日	月	火	水	木	金	土
10月			①① 1	①① 2	①① 3	①① 4	5
	6	①① 7	②② 8	②② 9	②② 10	②② 11	12
	13	スポーツの日 14	③③ 15	③③ 16	③③ 17	③③ 18	19
	20	②② 21	④④ 22	④④ 23	④④ 24	④④ 25	26
	27	③③ 28	⑤⑤ 29	⑤⑤ 30	⑤⑤ 31		
11月						大学祭準備 1	大学祭 2
	3	文化の日 大学祭 3	振替休日 大学祭 4	大学祭片付け 5	⑥⑥ 6	⑥⑥ 7	⑤⑤ 8
	10	④④ 11	⑥⑥ 12	⑦⑦ 13	⑦⑦ 14	⑥⑥ 15	16
	17	⑤⑤ 18	⑦⑦ 19	⑧試⑧ 20	⑧試⑧ 21	⑦⑦ 22	23
	24	⑥⑥ 25	⑧試⑧ 26	⑦⑦ 27	28	⑧試⑧ 29	30
		(注3) 11月27日は月曜日の振替授業実施日					
12月	1	⑧試⑧ 2	①⑨ 3	①⑨ 4	①⑨ 5	①⑨ 6	7
	8	①⑨ 9	②⑩ 10	②⑩ 11	②⑩ 12	②⑩ 13	14
	15	②⑩ 16	③⑪ 17	③⑪ 18	③⑪ 19	③⑪ 20	21
	22	③⑪ 23	④⑫ 24	④⑫ 25	④⑫ 26	④⑫ 27	28
	29	30	31				
令和7 (2025)年				元日 1	2	3	4
	5	④⑫ 6	⑤⑬ 7	⑤⑬ 8	⑤⑬ 9	⑤⑬ 10	11
	12	成人の日 13	⑥⑭ 14	⑥⑭ 15	⑥⑭ 16	試験準備 17	共通テスト 18
	19	共通テスト 20	⑤⑬ 21	⑦⑮ 22	⑦⑮ 23	⑥⑭ 24	25
	26	⑥⑭ 27	⑧試⑧ 28	⑧試⑧ 29	⑧試⑧ 30	⑦⑮ 31	
		(注4) 2月5日は月曜日の振替授業・試験実施日					
2月							1
	2	⑦⑮ 3	4	⑥試⑧ 5	6	⑧試⑧ 7	8
	9	10	推定記念の日 11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	天皇誕生日 振替休日 24	25	26	27	28	
3月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	春分の日 20	21	22
	23	24	卒業式・大学院 学位記授与式 25	26	27	28	29
	30	31					

(注) 暴風警報の発令等により授業休講があった場合には、別途補講日を設けることがある。

人間科学部学生便覧 目次

- ◆ 令和6年度学年暦（行事予定）
- ◆ 令和6年度学年暦（授業スケジュール）
- ◆ 目次
- ◆ 学生便覧に関する注意書き

<教育課程・履修関連ガイド>

人間科学部の教育目標・教育課程	1
令和6年度入学者の卒業に係る履修方法等	4
● 令和6年度入学者の履修方法	4
● 令和6年度入学者に対する履修指針	7
● 留意事項	10
● 令和6年度入学者の教育課程表（授業科目一覧表）	13
人間科学コース（学部英語コース）授業科目の案内	20
全学の学部学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内	22
履修・試験・授業等に関すること	23
学科目所属・卒業論文に関すること	30

<修学・学生生活関連ガイド>

修学・学生生活等における諸事項	31
健康管理・学生相談	41
保険・リスク管理	44
資格・免許	46
人間科学研究科・人間科学部教員一覧	52
人間科学研究科・人間科学部講義室等配置図	56

以下の情報は人科ホームページに掲載していますので、必ず確認してください。

授業料

奨学金

学部・研究科内の施設等

人間科学研究科各室及び研究科附属未来共創センターの紹介

就職

人間科学研究科・人間科学部ホームページ

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp>

学生便覧に関する注意書き

この学生便覧は、皆さんがこれから大阪大学で学び、学業を修めるために必要となる重要な情報を掲載しています。また、学生生活を送るうえで必要となる手続きやルール、その他の案内事項についても取りまとめています。内容をよく読み、大切に保管しておくようにしてください。

なお、この学生便覧を冊子として配付するのは入学時のみとなります。在学中、学生便覧の内容に変更が生じたときや更新が生じた場合には、K O A N 掲示板や大阪大学人間科学研究科・人間科学部のホームページに掲載しお知らせします。

<留意事項>

- この学生便覧に掲載する情報の多くは、大阪大学、あるいは大阪大学人間科学研究科・人間科学部が定める規程等に基づいています。代表的な規程について列挙します。

<大阪大学ホームページ/大阪大学規程集>

https://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_menu.html

以下、上記規程集に掲載されています。

○大阪大学学部学則

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000001.html

○大阪大学大学院学則

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000002.html

○大阪大学学位規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000093.html

○大阪大学学生納付金規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000468.html

○大阪大学人間科学部規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000156.html

○大阪大学大学院人間科学研究科規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000157.html

- この学生便覧に掲載する情報のうち、ホームページのURLを掲載しているものは、当該ホームページにより詳細な情報が掲載されています。確認してください。
- 時間割表やシラバスは、人間科学研究科・人間科学部ホームページ/在学生の情報へ
<https://www.hus.osaka-u.ac.jp>

令和6年度（2024年度）入学者

大阪大学人間科学部

教育課程・履修関連ガイド

人間科学部の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

教育目標

大阪大学の教育目標のもと、人間科学部は1972年の発足以来、従来の文系・理系という枠にとらわれず、つねに新たな学際的領域に視野を広げながら、人間という存在そのもの、及び社会の現実を、行動学・社会学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の専門的知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目標としています。この目標の実現のために、本部局は「学際性」・「実践性」・「国際性」という3つの理念を掲げ、高度な専門性に基づいて、各理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。

○高度な専門性と深い学識

初年度から、行動学・社会学・教育学・共生学という4つの学科目にまたがる人間科学の基礎的知識や考え方を学んだ後に、いずれかの学科目に所属してそれぞれの学科目における専門分野について専門的知識や考え方（専門知）、技能などの修得を目指します。

○教養

人文系・自然科学における全ての学問領域の基礎の修得から、文系・理系の枠を超えた幅広い基礎知識を養います。さらに、専門分野以外の知見や研究方法の学びを通じて、学際的視野から思考ができる能力の育成を目指します。

○国際性

社会及び大学のグローバル化の趨勢に配慮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルな分野で活躍するために必要な外国語力やコミュニケーション能力の育成を目指します。

○デザイン力

人間科学におけるそれぞれの専門分野の技法を実験・調査・フィールドワークなどの実践的活動から習得します。さらに、専門知やその技法を現場での問題発見・解決のためのアイデアや手法へと応用できる展開力やより進んだ研究を行うためのデザイン力や実践力の育成に取り組みます。

○独自の教育目標

行動学・社会学・教育学・共生学などの多様な専門分野での専門知を学びつつ、さまざまな課題を学際的視野から考察しながら研究を実践するための基礎を学びます。また、学内外や社会の現場との相互作用から生み出される共創知のための基礎力を養います。

人間科学部では、これらの教育目標を踏まえつつ、「人間と人間の営む社会を科学的に考察し、人間とは何かを見つめ、人間という存在を理解し、人間らしく生きていける社会を作り出すことに貢献できる有能な人材を育成すること」を目指しています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、人間科学部では、日本及び国際社会に貢献する能力を養うため、学際性・実践性・国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に学士（人間科学）を授与します。

○高度な専門性と深い学識

- ・行動学、社会学、教育学、共生学のいずれかの基本的な知識を体系的に理解している。
- ・人間や社会の諸側面や課題を人間科学的視座から分析・考察するための研究手法やスキルの知識を習得している。

○教養

- ・人間と社会の諸側面について学際的で幅広い知識を身につけている。
- ・自らの思考・判断のプロセスを他者に説明し、伝達するための複眼的な知識やそれらを十分に伝えることができるプレゼンテーション能力を習得している。

○国際性

- ・国際的に貢献できる素養の基礎となる外国語力を習得している。
- ・異なる文化を持つ他者とのコミュニケーションに意欲的にチャレンジする実践力を持っている。

○デザイン力

- ・実験・調査・フィールドワークなどを通じて、社会や学術における課題の発見力やそれらを解決するための方策や考え方などを組み立てるデザイン力を持っている。
- ・課題解決や科学的探究を具体的に実践するための知識の統合力や研究展開力を持っている。

○独自の学習目標

- ・現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代における学問的・社会的要請に人間科学的な視座や方法論から真摯に応えようとする意欲を持っている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、人間科学部は、人間についての理解を深め、現代の多様な課題を、学際的・実践的な視点で分析し、科学的な新しい人間観を社会に示し、人間の現実生活をより充実させることに貢献できる人材の育成を目指しています。このため本学部では、以下のカリキュラムを提供します。

○教育課程編成の考え方

教育課程としては、教養教育、国際性涵養教育、専門教育の3つの教育プログラムのそれぞれを低学年次から高学年次まで一貫して主体的に学ぶことができるように編成しています。教養教育では、全学共通教育科目の基礎の上に、専門分野以外にも視野を広げ、「複眼的」かつ「俯瞰的」な力を養成する科目を設定します。国際性涵養教育では、語学科目の他、異文化理解を進めるために基礎から発展へと展開する科目を設定します。専門教育では、専門分野を学ぶための基礎能

力を養成する学問を学んだ後、専門分野の基礎から発展に至るように段階的に科目を配置します。また、他学科目における科目や他部局が提供する科目の履修により幅広い教養や学際性の涵養を目指します。実践性に関わる課題発見力や研究展開力を高めるために、学生それぞれの研究テーマに関連させた演習科目や実験実習科目を高学年次に設定します。

○学修内容及び学修方法

学士課程では、教養教育・専門教育・国際性涵養教育を学びつつ、卒業演習・卒業研究を履修しながら、適切な研究指導の下で卒業論文を完成させます。

専門教育では、高度な専門的知識や人間科学的な視座や教養の習得を目指します。低学年次では、さまざまな分野の教員が行動学・社会学・教育学・共生学の諸科学から分野横断的な話題を題材とするオムニバス形式の講義を提供します。それらの科目は、学際的な考察を通じて、人間・社会を科学的に学び、考えるための基礎力を養う必修科目として履修します。さらに、それぞれの学科目ごとの知識や研究手法の基礎を学ぶ概論を選択必須科目として履修します。それらの科目でのアクティブラーニングや実習を通じて、人間・社会の科学的・学際的・実践的考察に触れ、学生の知的関心を喚起させ、高学年次での研究分野選択における道しるべとします。高学年次には、学生各自が選択して行動学科目・社会学科目・教育学科目・共生学科目のいずれかの学科目に所属し、所属学科目での講義、演習、グループワークやフィールドワークなどの学習をとおして専門分野における高度な専門的知識と研究を遂行するための考え方（思考力）の基礎を習得させます。

教養教育では、専門分野以外の幅広い学問の知識や視点の学びを通じて、幅広い教養を習得するために、低学年次にはさまざまな学問分野の知識や考え方を学びます。高学年次においては、所属学科目とは異なる学科目が提供する講義、演習科目の他に、教養教育、専門教育、国際性涵養教育の3つの教育プログラムの中から自由に科目を選び、学生の興味・関心に基づく主体的な学びを尊重しながら、学際性や「複眼的な」教養の涵養を促します。

国際性涵養教育では、外国語力、異文化理解に基づくコミュニケーション力を涵養するために、低学年次にeラーニングを取り入れた語学科目や各国・地域の歴史、文化等を学ぶ科目などを履修させます。高学年次には、高度国際性涵養教育科目や英語で行う人間科学特殊講義などで国際コミュニケーションの基盤となる外国語力や異文化理解力を身に付けさせます。また、外国語文献の購読・文献紹介などの外国語力を養う演習科目の提供もあります。

デザイン力の基礎を育成するために、本学部のカリキュラムの最大の特徴として、2年生後半から3年生後半までの一年半にわたり毎週3コマ枠を使った必修科目の実験実習（計6単位）を配置します。実験実習では、コミュニケーション能力を養いながら、課題発見やその解決に向けた専門性の高い知識・理論や研究手法を具体的に学び、卒業研究を行うための基礎力を養います。さらに、卒業研究では、実験室や学内外のフィールドにおいて主体的に研究を進める専門的知識や実践力を習得しつつ、自らのテーマを学際的に論考できる展開力を養います。

○学修成果の評価方法

学修の成果は、講義や演習の科目では、それぞれの科目のシラバスに記載されている学習目標の達成度について、成績評価の方法（試験や課題へのレポート等）を用いて評価します。実習・フィールドワーク科目では、それぞれの科目での学習目標に関するレポートや研究発表等への成績を基にして評価します。

令和6年度入学者の卒業に係る履修方法等

令和6年度入学者の履修方法

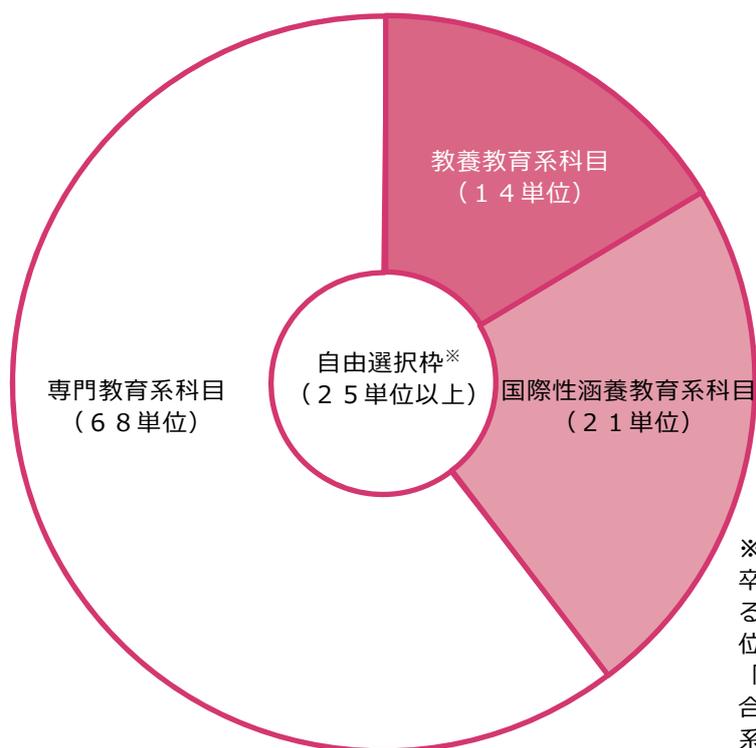
皆さんは、これから4年間、自身の興味や関心に基づき、大阪大学や大阪大学人間科学部が提供するさまざまな授業科目を履修することができます。ただし、卒業するためには、大阪大学人間科学部規程で定める履修方法により、必要な単位を修得しなければなりません。その履修方法については、次ページ以降に記載しているとおりです。

なお、大阪大学の教育課程は大きく教養教育系科目、専門教育系科目と国際性涵養教育系科目に区別されます。これらの科目に含まれている全学共通教育科目の履修については、別途配付される「全学共通教育科目履修の手引」と「人間科学部学生便覧」を参照し、卒業に必要な単位を修得するようにしてください。

また、教養教育系科目、専門教育系教育科目、国際性涵養教育系科目の履修については、次ページに記載する履修方法により、履修指針に従って、人間科学部教育課程表（授業科目一覧表）の授業科目の中から、卒業に必要な単位を修得するようにしてください。

（履修イメージ）

卒業要件単位（128単位以上）



※「自由選択枠」とは：

卒業に必要な128単位以上を修得するために、「教養教育系科目」14単位、「専門教育系科目」68単位及び「国際性涵養教育系科目」21単位の合計103単位の他に、これら3つの系科目に属する授業科目のうち、人間科学部が指定する科目区分の授業科目から修得する必要がある単位（25単位以上）。

※履修方法など詳しくは、学生便覧p5以降を確認してください。

大阪大学人間科学部規程 別表 1

系区分	科目区分		卒業要件単位	履修方法等
教養教育系科目	全学共通教育科目	学問への扉	2	学問への扉の授業科目の中から2単位を修得すること。
		基盤教養教育科目	6	人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目及び総合型科目のうち本学部が指定する授業科目の中から6単位以上を修得すること。
		情報教育科目	2	「情報社会基礎」2単位を修得すること。
		健康・スポーツ教育科目	2	「スポーツ実習A」1単位の他に、「スポーツ科学」1単位、「健康科学実習A」1単位及び「健康科学」1単位の中から1科目を選択履修し、計2単位を修得すること。
		アドヴァンスト・セミナー	—	修得した単位は卒業に必要な単位数に算入することができる。
	高度教養教育科目	2	次の授業科目のうちから、2年次秋学期以降に選択履修し、2単位以上を修得すること。 ・本学部が高度教養教育科目として開設する科目（別表3の1） ・他学部等が高度教養教育科目として提供する科目で本学部が指定する科目 ・全学教育推進機構が開講する高度教養教育科目 ・コミュニケーションデザイン科目で本学部が認める科目	
小 計			14	上記の要件を満たした上で、計14単位以上を修得すること。
系区分	科目区分		卒業要件単位	履修方法等
専門教育系科目（別表3の2）	専門基礎教育科目	必修科目	6	「統計学 A—I」2単位、「統計学 A—II」2単位及び「線形代数学入門」2単位の計6単位を修得すること。
		選択科目	—	修得した単位は卒業に必要な単位数に算入することができる。
	基礎科目	必修科目	10	「人間科学概論」2単位、「行動学概論（心理学概論）」2単位、「社会学概論」2単位、「教育学概論」2単位及び「共生学概論」2単位の計10単位を修得すること。
		選択必修科目	4	別に定める履修指針に従い4単位以上を修得すること。
		選択科目	6	別に定める履修指針に従い6単位以上を修得すること。
	学科目指定科目	選択科目	32	別に定める履修指針に従い計32単位以上を修得すること。
	共通科目	必修科目	10	「卒業演習」2単位及び「卒業研究」8単位の計10単位を修得すること。
		選択科目	—	修得した単位は卒業に必要な単位数に算入することができる。
	小 計			68

系区分	科目区分		卒業要件単位	履修方法等	
国際性涵養教育系科目	全学共通教育科目	マルチリンガル教育科目	第1外国語	8	第1外国語の総合英語のうち本学部が指定する授業科目の中から6単位及び実践英語のうち本学部が指定する授業科目の中から2単位の計8単位を修得すること。ただし、英語を母語とする外国人留学生については、第1外国語として、総合英語の授業科目のうち本学部が指定する授業科目の中から2単位並びにグローバル理解の「多文化コミュニケーション（日本語）」の科目及び第2外国語の日本語のうち本学部が指定する授業科目の中から6単位の計8単位を履修することができる。
			第2外国語	4	第2外国語のドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語及びスペイン語の中から1外国語を選択し、本学部が指定する授業科目の中から4単位を修得すること。ただし、外国人留学生については、外国語の1つとして日本語を選択することができる。この場合において、第1外国語として、グローバル理解の「多文化コミュニケーション（日本語）」の科目又は第2外国語の日本語を履修している外国人留学生については、第2外国語として日本語を選択できない。
		選択外国語	3	選択外国語の英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ギリシャ語及びラテン語のうち本学部が指定する授業科目の中から3単位を修得すること。	
		グローバル理解	4	グローバル理解のうち本学部が指定する授業科目の中から4単位を修得すること。	
	高度国際性涵養教育科目		2	次の授業科目のうちから、2年次秋学期以降に選択履修し、2単位以上を修得すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・本学部が高度国際性涵養教育科目として開設する科目（別表3の3） ・本学部が人間科学コースの専門教育科目として開設する科目（別表4） ・他学部が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で本学部が指定する科目 ・国際交流科目のうち本学部が認める科目 	
小計			21	上記の要件を満たした上で、計21単位以上を修得すること。	
合計			128	別に定める履修指針に従い、上記の要件をすべて満たしたうえで、合計128単位以上を修得すること。	

（履修上の注意）

卒業に必要な単位として計128単位以上を修得するために、「教養教育系科目」14単位、「専門教育系科目」68単位及び「国際性涵養教育系科目」21単位の合計103単位の他に、これら3つの系科目に属する授業科目のうち人間科学部が指定する科目区分の授業科目（履修指針に「★」がついているものに限る。）から修得する必要がある単位（25単位以上）を『自由選択枠』という。

なお、自由選択枠の単位は、各系区分（「教養教育系科目」、「専門教育系科目」、「国際性涵養教育系科目」）でそれぞれ修得すべき単位数に定めはなく、自身が学びたい・深めたい科目から自由に単位を修得することができる。

令和6年度入学者に対する履修指針

人間科学部における卒業要件としての、教養教育系科目、専門教育系科目及び国際性涵養教育系科目の科目並びに修得単位数は次のとおりである。

I. 教養教育系科目（14単位以上）

以下の方法により教養教育系科目から14単位以上を修得すること。なお、教養教育系科目のうち人間科学部が指定する科目区分（「★」があるものに限る。）の授業科目から選択履修し各科目区分で定められた卒業要件単位数を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位（25単位以上）として卒業に必要な単位数に算入することができる。

●学問への扉（2単位）

学問への扉の授業科目の中から2単位を修得すること。

●基盤教養教育科目（6単位） ★余剰単位は自由選択枠に算入可

人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目及び総合型科目のうち人間科学部が別に指定する授業科目（「全学共通教育科目履修の手引」参照）の中から6単位以上を修得すること。

●情報教育科目（2単位）

「情報社会基礎」2単位を修得すること。

●健康・スポーツ教育科目（2単位）

「スポーツ実習A」1単位の他に、「スポーツ科学」1単位、「健康科学実習A」1単位及び「健康科学」1単位のうち1科目を選択履修し、計2単位を修得すること。

●アドヴァンスト・セミナー ★修得単位は自由選択枠に算入可

アドヴァンスト・セミナーで修得した単位は、自由選択枠の単位（25単位以上）として、卒業に必要な単位数に算入することができる。

●高度教養教育科目（2単位） ★余剰単位は自由選択枠に算入可

次の授業科目のうちから、2年次秋学期以降に選択履修し、2単位以上を修得すること。

1. 本学部が高度教養教育科目として開設する科目【別表3の1】
2. 他学部等が高度教養教育科目として提供する科目で人間科学部が指定する科目
3. 全学教育推進機構が開講する高度教養教育科目
4. コミュニケーションデザイン科目で人間科学部が認める科目

II. 専門教育系科目（68単位以上）【別表3の2】

専門領域に関連する基礎的及び中核的な専門教育系科目を以下の方法により、必修科目26単位、選択必修科目4単位、選択科目38単位の合計68単位以上を修得すること。

なお、専門教育系科目のうち、人間科学部が指定する科目区分（「★」があるものに限る。）の授業科目から選択履修し各科目区分で定められた卒業要件単位数を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位（25単位以上）として卒業に必要な単位数に算入することができる。

II-1. 専門基礎教育科目（6単位）**A. 必修科目（6単位）**

「統計学A-I」2単位、「統計学A-II」2単位及び「線形代数学入門」2単位の計6単位を修得すること。

B. 選択科目 ★修得単位は自由選択枠に算入可

選択科目から修得した単位は、自由選択枠の単位（25単位以上）として卒業に必要な単位数に算入することができる。

II-2. 専門教育科目（62単位以上）

以下の方法により専門教育科目から62単位以上を修得すること。

基礎科目**A. 必修科目（10単位）**

「人間科学概論」2単位、「行動学概論（心理学概論）」2単位、「社会学概論」2単位、「教育学概論」2単位、「共生学概論」2単位の計10単位を修得すること。

B. 選択必修科目（4単位） ★余剰単位は自由選択枠に算入可

●行動学科目

- ・選択必修科目から「心理学実験」を含む4単位。

●社会学科目

- ・選択必修科目から「現代社会の課題」を含む4単位。

●教育学科目

- ・選択必修科目から「現代日本の教育問題」を含む4単位。

注）所属学科目の志望において、臨床心理学分野あるいは教育心理学分野を希望する場合は「現代日本の教育問題」に加えて、「心理学実験」を修得しておくことが望ましい。

●共生学科目

- ・選択必修科目から「共生の理論と実践」を含む4単位。

C. 選択科目（6単位） ★余剰単位は自由選択枠に算入可

選択科目のA群、B群、C群から各2単位（計6単位）以上修得すること。

（注意）

選択科目に該当する科目（別表3の2参照）は、全学共通教育科目の基盤教養教育科目として開講されていますが、人間科学部の学生がこれらの科目の単位を修得した場合、専門教育科目の単位として扱います。

学科目指定選択科目**A. 学科目指定の選択科目（32単位以上） ★余剰単位は自由選択枠に算入可**

●行動学科目

- ・所属学科目の演習4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から18単位以上。
- ・他学科目の選択科目から4単位以上。

→ 合計32単位以上

●社会学科目

- ・所属学科目の演習4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から18単位以上。
- ・他学科目の選択科目から4単位以上。

→ 合計32単位以上

●教育学科目

- ・所属学科目の演習^注4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から18単位以上。
- ・他学科目の選択科目から4単位以上。

注)「公認心理師の職責」の単位は、所属学科目の演習の単位として取り扱います。

→ 合計32単位以上

●共生学科目

- ・所属学科目の演習4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から18単位以上。
- ・他学科目の選択科目から4単位以上。

→ 合計32単位以上

共通科目**A. 必修科目（10単位）**

4年次以後、「卒業演習」2単位及び「卒業研究」8単位の計10単位を修得すること。
なお、「卒業研究」については、「卒業演習」の単位を修得した者のみ履修できるものとする。

B. 選択科目 ★修得単位は自由選択枠に算入可

選択科目から修得した単位は、自由選択枠の単位（25単位以上）として卒業に必要な単位数に算入することができる。

特別科目

特別科目「心理実習」は、卒業に必要な単位数に算入することはできない。

Ⅲ. 国際性涵養教育系科目（21単位以上）

以下の方法により国際性涵養教育系科目から21単位以上を修得すること。なお、国際性涵養教育系科目のうち、人間科学部が指定する科目区分の授業科目（「★」があるものに限る。）から選択履修し各区分で定められた卒業要件単位数を超えて修得した単位は、自由選択枠の単位（25単位以上）として卒業に必要な単位数に算入することができる。

●マルチリンガル教育科目（19単位） ★余剰単位は自由選択枠に算入可

- (1)第1外国語の総合英語のうち人間科学部が指定する授業科目の中から6単位及び実践英語（e-learning）のうち人間科学部が指定する授業科目の中から2単位の計8単位を修得すること。ただし、英語を母語とする外国人留学生については、

第1外国語として、

- (A) 総合英語の授業科目のうち人間科学部が指定する授業科目の中から2単位
- (B) グローバル理解の「多文化コミュニケーション（日本語）」の科目及び第2外国語の日本語のうち人間科学部が指定する授業科目の中から6単位

の計8単位を履修することができる。

(2) 第2外国語のドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語及びスペイン語の中から外国語を1つ選択し、人間科学部が指定する授業科目の中から4単位を修得すること。ただし、外国人留学生については、外国語の1つとして日本語を選択することができる。この場合において、第1外国語として、グローバル理解の「多文化コミュニケーション（日本語）」の科目又は第2外国語の日本語を履修している外国人留学生については、第2外国語として日本語を選択できない。

(3) 選択外国語の英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ギリシャ語及びラテン語のうち人間科学部が指定する授業科目の中から3単位を修得すること。

(4) グローバル理解のうち人間科学部が指定する授業科目の中から4単位を修得すること。
なお、「特別外国語演習」で修得した単位は、グローバル理解の単位ではなく、自由選択枠の単位（25単位以上）として、卒業に必要な単位数に算入することができる。

●高度国際性涵養教育科目（2単位） ★余剰単位は自由選択枠に算入可

次の授業科目のうちから、2年次秋学期以降に選択履修し、2単位を修得すること。

1. 人間科学部が高度国際性涵養教育科目として開設する科目【別表3の3】
2. 人間科学部が人間科学コースの専門教育科目として開設する科目【別表4】
3. 他学部が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で人間科学部が指定する科目
4. 国際交流科目のうち人間科学部が認める科目

留意事項

履修方法等に関連する留意事項は下記のとおりです。

(1) 2年次夏学期終了時点における修得単位について

教養教育系科目、国際性涵養教育系科目と専門教育系科目において、下記1～4に定める単位を修得していることが望ましい。（2年次に行う学科目配属の際、志望者数が基準を超えたときの選考に影響する場合があります。）

1. 教養教育系科目14単位以上
2. 国際性涵養教育系科目21単位のうち、マルチリンガル教育科目から第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上と選択外国語2単位以上を含む19単位以上（19単位以上には、高度国際性涵養教育科目は含めない）
3. 専門教育系科目68単位のうち、専門基礎教育科目の必修科目6単位、専門教育科目の基礎科目・必修科目10単位以上、専門教育科目の基礎科目・選択必修科目4単位以上の合計20単位以上
4. 上記1～3の他、教養教育系科目、国際性涵養教育系科目（マルチリンガル教育科目）、専門教育系科目（専門基礎教育科目の選択科目及び専門教育科目の基礎科目・学科目指定科目・共通科目）のいずれかから8単位以上

(2) 同一授業科目の履修について

既に単位を修得した授業科目の再履修は認められない。ただし、人間科学部が開講する授業科目で授業サブタイトルや内容が異なるときに限り、再履修を認めることがある。

再履修を希望する場合は、履修登録期間内に履修登録票を教務係に提出すること。

(3) 再履修について

試験成績評価が不合格の授業科目については、再履修することができる。

(4) 外国の大学で履修した科目の修得単位について

本学（人間科学部）と大学間（部局間）学生交流協定を締結している外国の大学に留学し、当該大学で授業科目を修得した場合、教務委員会で審査の上、単位の認定をすることがある。

認定を希望する場合は留学終了後、速やかに認定願（用紙は教務係で配付）を提出すること。

なお、修得した単位は、履修方法の別表1に示す学科目指定科目の選択科目（①）あるいは別表3の3に示す「海外特別研究^{（注）}」（②）として認定する。

また、上記①と②の認定単位数は計30単位を上限とし、認定した科目の成績証明書における評価は「認定」とする。

（注）「海外特別研究」として認定できる単位は12単位を限度とし、高度国際性涵養教育科目の単位とすることができる。

(5) 協定校への交換留学中における卒業論文等の作成に直接関わる科目の履修について

本学（人間科学部）と大学間（部局間）学生交流協定を締結している大学への留学中における卒業論文作成に直接関わる人間科学部専門教育科目（注）の履修については、6単位を限度として認めることができる。

（注）卒業論文作成に直接関わりとされる科目例・・・実験実習Ⅰ～Ⅲ、卒業演習等

また、以下の条件を満たす者に限り、上記6単位とは別に留学中に「卒業研究」の履修を認めることがある。

- 「卒業演習」の単位を修得済み又は、上述の履修方法により「卒業演習」の単位を修得できる見込みがあること。ただし、「卒業演習」の単位を修得見込みの者で「卒業演習」の単位を修得できなかった場合は、「卒業研究」の履修を取り消す。
- 卒業を希望する年度の12月までに留学を終え、帰国後に所定の手続きにより定められた期日までに卒業論文が提出できること。また、留学中も卒業するために必要な手続きを期日までに行えること。
- 留学前の時点で卒業要件単位の修得の目途が立っており、留学中も指導教員の指導のもと「卒業研究」を履修することを指導教員が了承していること。

(6) 未来共創センターにおける実践型学修活動の単位認定について

未来共創センターにおける実践型の諸活動に学生が主体的に関わり、その学修活動の成果等に対して単位認定を申請する場合は、所定の申請様式を同センターに提出すること。

なお、単位認定は、教務委員会で審査するとともに、認められた場合は専門教育科目・共通科目の「人間科学学際実習Ⅰ」（2単位）又は「人間科学学際実習Ⅱ」（2単位）として認定する。

(7) 在学中に単位互換に関する協定締結大学で修得した単位及び他学部の授業科目のうち、高度教養教育科目又は高度国際性涵養教育科目として提供される授業科目以外で修得した単位に係る手続きについて

在学中に単位互換に関する協定を結んでいる国内の大学で修得した科目から修得した単位及び他学部の授業科目のうち高度教養教育科目又は高度国際性涵養教育科目として提供される授業科目以外の授業科目で修得した単位を、指導教員の指導により、10単位を上限として、専門教育科目/共通科目/選択科目の単位として卒業に必要な単位数に算入する場合は、教務係より4年次秋学期頃に指示する方法に従い、届出を行うこと。

(8) メディア授業科目により修得する卒業に必要な単位数について

メディア授業とは、対面授業の授業科目の一部として、いわゆる同時性又は即応性を持って双方向性（対話性）を有し、対面授業に相当する教育効果を有すると認められるメディア授業が全開講回数半数以上となる授業科目を「メディア授業科目」とします。本学部の授業でもメディア授業として提供されるものがありますのでシラバスを確認してください。ただし、卒業に必要な単位のうち「メディア授業科目」により修得する単位数は60単位を超えないものと規定されていますので注意してください。

なお、感染症や災害発生等の非常時において、対面で予定されていた授業の全部または一部がメディア授業として行われる場合があります。このような授業の単位は上記のメディア授業の上限単位数に含める必要はないとされる可能性があります。この扱いは状況によりまでするので、授業担当教員に問い合わせてください。

令和6年度入学者の教育課程表（授業科目一覧表）

大阪大学人間科学部規程 別表3

別表3の1 教養教育系科目

区 分			授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次	備考欄
高度教養教育科目	共通科目	選択科目	インターンシップ等実習 A	2	実 習	3	
			インターンシップ等実習 B	2	実 習	3	
			キャリアデザイン概論	2	講 義	3	
			未来共創フィールド実習 I	1	実 習	3~4	
			未来共創フィールド実習 II	1	実 習	3~4	

別表3の2 専門教育系科目

1 専門基礎教育科目

区 分			授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次	備考欄
専門基礎教育科目	必修科目		統計学A-I	2	講 義	1	
			統計学A-II	2	講 義	1	
			線形代数学入門	2	講 義	1	
	選択科目		解析学入門	2	講 義	1	

2 専門教育科目

区 分			授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次	備考欄	
専門教育科目	基礎科目	必修科目	人間科学概論	2	講 義	1		
			行動学概論（心理学概論）	2	講 義	1		
			社会学概論	2	講 義	1		
			教育学概論	2	講 義	1		
			共生学概論	2	講 義	1		
		選択必修科目	心理学実験	2	実験実習	2		
			現代社会の課題	2	講 義	2		
			現代日本の教育問題	2	講 義	2		
			共生の理論と実践	2	講 義	2		
		選択科目	A群	人間学の考え方	2	講 義	1	
				人間学の話題	2	講 義	1	
				社会学の考え方	2	講 義	1	
				社会思想史	2	講 義	1	
				現代文化論	2	講 義	1	
			B群	現代差別論	2	講 義	1	
				現代人権論	2	講 義	1	
				行動学の考え方	2	講 義	1	
				感情・人格心理学	2	講 義	1	
				心理学基礎実験	2	実 験	1	
				現代社会論	2	講 義	1	
社会学の話題	2	講 義	1					

区分		授業科目名	単位数	分類	配当年次	備考欄	
基礎科目	選択科目	C群	心理・行動科学入門	2	講義	1	
		行動学の話題	2	講義	1		
		共生学の話題	2	講義	1		
		D群	東洋美術史	2	講義	1	
			西洋美術史	2	講義	1	
			日本史の考え方	2	講義	1	
			世界史の考え方	2	講義	1	
			日本史の話題	2	講義	1	
			人文地理学の考え方	2	講義	1	
			人文地理学の話題	2	講義	1	
			法学の話題	2	講義	1	
			政治学の話題	2	講義	1	
	専門教育科目		選択科目	基礎心理学（知覚・認知心理学）	2	講義	2~3
		認知心理生理学（神経・生理心理学）		2	講義	2~3	
		認知心理学		2	講義	2~3	
		基礎心理学演習Ⅰ		2	演習	3	
		基礎心理学演習Ⅱ		2	演習	3	
		応用認知心理学（知覚・認知心理学）		2	講義	2~3	
		ヒューマン・ファクターズ心理学		2	講義	2~3	
		交通心理学		2	講義	2~3	
		応用認知心理学演習Ⅰ		2	演習	3	
		応用認知心理学演習Ⅱ		2	演習	3	
		社会・集団・家族心理学		2	講義	2~3	
集団力学		2		講義	2~3		
社会心理学演習Ⅰ		2		演習	3		
社会心理学演習Ⅱ		2		演習	3		
臨床死生学・老年行動学（福祉心理学）		2		講義	2~3		
エイジングの科学		2		講義	2~3		
臨床死生学・老年行動学演習Ⅰ		2		演習	3		
臨床死生学・老年行動学演習Ⅱ		2		演習	3		
環境評価論		2		講義	2~3		
人間環境論		2		講義	2~3		
生活環境論	2	講義	2~3				
環境行動学演習Ⅰ	2	演習	3				
環境行動学演習Ⅱ	2	演習	3				
産業心理学（産業・組織心理学）	2	講義	2~3				
安全行動学	2	講義	2~3				
安全行動学演習Ⅰ	2	演習	3				
安全行動学演習Ⅱ	2	演習	3				
人間行動学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2				

区 分		授 業 科 目 名	単 位 数	分 類	配 当 年 次	備 考 欄	
専門教育科目	行動学科目	選択科目	人間行動学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3	
			人間行動学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3	
			人間行動学実験実習Ⅰ (心理的アセスメント)	2	実験実習	2	
			人間行動学実験実習Ⅱ (心理演習)	2	実験実習	3	
			人間行動学実験実習Ⅲ (心理学研究法)	2	実験実習	3	
			比較発達行動学 (発達心理学)	2	講 義	2~3	
			比較発達心理学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			比較発達心理学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			行動生理学	2	講 義	2~3	
			学習生理学 (学習・言語心理学)	2	講 義	2~3	
			感覚生理学	2	講 義	2~3	
			行動生理学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			行動生理学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			多変量統計科学	2	講 義	2~3	
			心理学統計法	2	講 義	2~3	
			行動統計科学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			行動統計科学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			行動形態学	2	講 義	2~3	
			生物人類学	2	講 義	2~3	
			人類遺伝学	2	講 義	2~3	
			行動形態学演習	2	演 習	3	
			生物人類学演習	2	演 習	3	
			比較行動学	2	講 義	2~3	
			霊長類心理学	2	講 義	2~3	
			比較行動学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			比較行動学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			認知行動学	2	講 義	2~3	
			行動医学・健康行動論 (健康・医療心理学)	2	講 義	3	
			認知行動工学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			認知行動工学演習Ⅱ (心理演習)	2	演 習	3	
	行動生態学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2			
	行動生態学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3			
	行動生態学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3			
行動生態学実験実習Ⅰ (心理的アセスメント)	2	実験実習	2				
行動生態学実験実習Ⅱ (心理演習)	2	実験実習	3				
行動生態学実験実習Ⅲ (心理学研究法)	2	実験実習	3				
社会学科目	選択科目	社会学環境学演習	2	演 習	2		
		社会学理論	2	講 義	2~3		
		現代社会学	2	講 義	2~3		
		現代社会と福祉理論Ⅰ	2	講 義	2~3		

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次	備考欄	
専門教育科目	社会学科目	選択科目	現代社会と福祉理論Ⅱ	2	講 義	2～3	
			現代社会学演習	2	演 習	3	
			経験社会学	2	講 義	2～3	
			社会変動論	2	講 義	2～3	
			社会調査演習	2	演 習	3	
			文化社会学	2	講 義	2～3	
			比較社会学	2	講 義	2～3	
			コミュニケーション社会学	2	講 義	2～3	
			文化社会学演習	2	演 習	3	
			社会環境学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2～3	
			社会環境学実験実習Ⅱ	2	実験実習	2～3	
			社会環境学実験実習Ⅲ	2	実験実習	2～3	
			人間科学基礎理論	2	講 義	2～3	
			認識論・形而上学	2	講 義	2～3	
			科学哲学・分析哲学	2	講 義	2～3	
			哲学と質的研究	2	講 義	2～3	
			行為と倫理	2	講 義	2～3	
			比較文明学	2	講 義	2～3	
			文明動態学	2	講 義	2～3	
			日本の現代思想	2	講 義	2～3	
			哲学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			哲学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			哲学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2	
			哲学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3	
			哲学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3	
			人類学理論	2	講 義	2～3	
			グローバル化と文化	2	講 義	2～3	
	科学技術と文化	2	講 義	2～3			
	異文化理解	2	講 義	2～3			
	現代人類学	2	講 義	2～3			
	人類学文献講読	2	講 義	2～3			
	文化人類学演習Ⅰ	2	演 習	3			
	文化人類学演習Ⅱ	2	演 習	3			
文化人類学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2～3				
文化人類学実験実習Ⅱ	2	実験実習	2～3				
文化人類学実験実習Ⅲ	2	実験実習	2～3				
教育学科目	選択科目	人間変容論Ⅰ	2	講 義	2～3		
		人間変容論Ⅱ	2	講 義	2～3		
		人間変容論演習Ⅰ	2	演 習	3		
		人間変容論演習Ⅱ	2	演 習	3		

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次	備考欄	
専門教育科目	教育学科目	選択科目	教育人間学	2	講 義	2~3	
			外国教育史	2	講 義	2~3	
			教育哲学	2	講 義	2~3	
			教育思想史	2	講 義	2~3	
			教育人間学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			教育人間学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			教育工学	2	講 義	2~3	
			教授・学習過程論 (学習・言語心理学)	2	講 義	2~3	
			教育工学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			教育工学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			司法・犯罪心理学	2	講 義	2~3	
			教育・学校心理学	2	講 義	2~3	
			教育心理学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			教育心理学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			臨床心理学概論	2	講 義	2~3	
			心理学的支援法	2	講 義	2~3	
			臨床心理学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			公認心理師の職責	2	演 習	3	注
			感情・人格心理学(理論と実践)	2	講 義	2~3	
			臨床教育学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2	
			臨床教育学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3	
			臨床教育学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3	
			臨床教育学実験実習Ⅰ (心理的アセスメント)	2	実験実習	2	
			臨床教育学実験実習Ⅱ(心理演習)	2	実験実習	3	
			臨床教育学実験実習Ⅲ(心理学研究法)	2	実験実習	3	
			教育社会学	2	講 義	2~3	
			教育関係論	2	講 義	2~3	
			教育社会学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			教育社会学演習Ⅱ	2	演 習	3	
			比較教育制度学	2	講 義	2~3	
			教育法学	2	講 義	2~3	
			日本教育史	2	講 義	2~3	
			教育制度学演習Ⅰ	2	演 習	3	
			教育制度学演習Ⅱ	2	演 習	3	
生涯教育学	2	講 義	2~3				
生涯スポーツ学	2	講 義	2~3				
シティズンシップと教育	2	講 義	2~3				
ジェンダーと教育	2	講 義	2~3				
人権教育論	2	講 義	2~3				
生涯教育学演習Ⅰ	2	演 習	3				

区分		授業科目名	単位数	分類	配当年次	備考欄	
専門教育科目	教育学科目	選択科目	生涯教育学演習Ⅱ	2	演習	3	
			学校社会学	2	講義	2~3	
			コミュニティ教育学	2	講義	2~3	
			教育文化学	2	講義	2~3	
			教育文化学演習Ⅰ	2	演習	3	
			教育文化学演習Ⅱ	2	演習	3	
			教育環境学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2	
			教育環境学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3	
			教育環境学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3	
			健康・医療心理学	2	講義	2~3	
			関係行政論	2	講義	3	
	共生学科目	選択科目	共生の技法Ⅰ	2	講義	2~3	
			共生の技法Ⅱ	2	講義	2~3	
			フィールドワーク論Ⅰ	2	講義	2~3	
			共生の人間学Ⅰ (障害者・障害児心理学)	2	講義	2~3	
			共生の人間学Ⅱ	2	講義	2~3	
			福祉社会論	2	講義	2~3	
			共生の人間学演習Ⅰ	2	演習	3	
			共生の人間学演習Ⅱ	2	演習	3	
			共生社会論Ⅰ	2	講義	2~3	
			共生社会論Ⅱ	2	講義	2~3	
			共生社会論Ⅲ	2	講義	2~3	
			共生社会論演習Ⅰ	2	演習	3	
			共生社会論演習Ⅱ	2	演習	3	
			共生行動論Ⅰ	2	講義	2~3	
			共生行動論Ⅱ	2	講義	2~3	
			共生行動論演習Ⅰ	2	演習	3	
			共生行動論演習Ⅱ	2	演習	3	
			共生教育論Ⅰ	2	講義	2~3	
			共生教育論Ⅱ	2	講義	2~3	
			共生教育論演習Ⅰ	2	演習	3	
			共生教育論演習Ⅱ	2	演習	3	
未来共生論Ⅰ	2	講義	2~3				
未来共生論Ⅱ	2	講義	2~3				
国際協力学Ⅰ	2	講義	2~3				
国際協力学Ⅱ	2	講義	2~3				
国際協力学演習Ⅰ	2	演習	3				
国際協力学演習Ⅱ	2	演習	3				
多文化共生学Ⅰ	2	講義	2~3				
多文化共生学演習Ⅰ	2	演習	3				

区分			授業科目名	単位数	分類	配当年次	備考欄
専門教育科目	共生学 科目	選択科目	地域創生論Ⅰ	2	講義	2~3	
			地域創生論Ⅱ	2	講義	2~3	
			地域創生論演習Ⅰ	2	演習	3	
			地域創生論演習Ⅱ	2	演習	3	
			コンフリクトと共生Ⅰ	2	講義	2~3	
			コンフリクトと共生Ⅱ	2	講義	2~3	
			コンフリクトと共生演習Ⅰ	2	演習	3	
			コンフリクトと共生演習Ⅱ	2	演習	3	
			グローバル共生論Ⅰ	2	講義	2~3	
			共生学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2	
			共生学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3	
			共生学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3	
			共通科目	必修科目	卒業演習	2	卒業演習
	卒業研究	8			卒業研究	4	
	選択科目	情報処理演習Ⅰ		2	演習	2~3	
		情報処理演習Ⅱ		2	演習	2~3	
		自然地理学		2	講義	2~3	
		人体の構造と機能及び疾病		2	講義	2~4	
		精神疾患とその治療		2	講義	2~4	
	人間科学学際実習Ⅰ	2	実習	2~4			
人間科学学際実習Ⅱ	2	実習	2~4				
特別科目	養成専攻科目 公認心理師	心理実習	2	実習	4		

(注) 「公認心理師の職責」は、「演習」として扱う。

別表3の3 国際性涵養教育系科目

区分			授業科目名	単位数	分類	配当年次	備考欄
高度国際性涵養教育科目	共通科目	選択科目	人間科学特殊講義Ⅰ	2	講義	2~3	
			人間科学特殊講義Ⅱ	2	講義	2~3	
			人間科学特殊講義Ⅲ	2	講義	2~3	
			人間科学特殊講義Ⅳ	2	講義	2~3	
			海外特別研究Ⅰ	2	特別研究	2~4	
			海外特別研究Ⅱ	2	特別研究	2~4	
			海外特別研究Ⅲ	2	特別研究	2~4	
			海外特別研究Ⅳ	2	特別研究	2~4	
			海外特別研究Ⅴ	2	特別研究	2~4	
			海外特別研究Ⅵ	2	特別研究	2~4	

人間科学コース（学部英語コース）授業科目の案内

人間科学コース（学部英語コース）とは

人間科学部人間科学科には英語による授業の履修のみで学士の学位を取得できるコースとして人間科学コースが設置されています。このコースは、平成23年度からスタートし、世界各国から学生を受け入れています。1年生～4年生まで現在約50名が在籍し、人間科学部の建物で学んでおり、皆さんとの交流も期待されています。人間科学コースの授業科目はすべて英語で行われていますが、このコースの授業を皆さんも履修することができます。ただし、求められる英語能力は、原則、TOEFL-IBT85点以上、IELTS6.5以上です。

人間科学コース（学部英語コース）の授業科目（下表の科目区分「専門教育科目」に限る）で修得した単位は、高度国際性涵養教育科目の単位として卒業に必要な単位数に算入することができます。人間科学コースの授業科目は下表のとおりです。関心がある場合には、授業の内容をシラバスで参照してください。

人間科学コース（学部英語コース）専門教育系科目教育課程表（授業科目一覧表）

大阪大学人間科学部規程 別表4（一部抜粋）

系区分	科目区分	授業科目名	単位数	分類	配当年次
専門教育系科目	専門教育科目 選択科目	Global Health and Education	2	講義	2～4
		Gender and Education	2	演習	2～4
		Social Stratification in Japanese Society	2	講義	2～4
		East Asian International Relations	2	演習	2～4
		Popular Culture in Japan	2	演習	2～4
		Gender and Development	2	講義	2～4
		Diversity and Human Rights in Japan	2	講義	2～4
		Contemporary Educational Issues in Japan	2	講義	2～4
		Primatology in Japan	2	演習	2～4
		Multivariate Data Science	2	演習	2～4
		International Development and Collaboration I	2	講義	2～4
		International Development and Collaboration II	2	講義	2～4
		Disaster Prevention and International Cooperation	2	講義	2～4
		Contemporary Japanese Thought	2	講義	2～4
		Issues in Gerontology	2	講義	2～4
		Food, Culture and Society	2	演習	2～4
		Global Issues in Education	2	講義	2～4
		Psychology of Aging	2	講義	2～4
		Special Topic in Human Sciences I	2	講義	2～4
		Special Topic in Human Sciences II	2	講義	2～4
Special Topic in Human Sciences III	2	講義	2～4		
Special Topic in Human Sciences IV	2	講義	2～4		

系区分	科目区分	授業科目名	単位数	分類	配当年次	
専門教育系科目	専門教育科目	選択科目	Special Topic in Human Sciences V	2	講義	2~4
			Peace Operations and the Global Community	2	講義	2~4
			Global Environment-Development Balance	2	講義	2~4
			Global Civil Society	2	講義	2~4
			World Affairs and the Media	2	講義	2~4
			Economic Development	2	講義	2~4
			Japanese Diplomacy	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Culture I	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Culture II	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Culture III	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Culture IV	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Society I	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Society II	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Society III	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Society IV	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Religion I	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Religion II	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Political Thought I	2	講義	2~4
			Topics in Japanese Political Thought II	2	講義	2~4
			Classic Poetry in China, Japan and Korea	2	講義	2~4
			Traditional Performing Arts in Contemporary Japanese Society	2	講義	2~4
			Gender in Contemporary Japanese Popular Culture	2	講義	2~4
			Statistics for Social Research	2	講義	2~4
			Sociological Theory	2	講義	2~4
			Comparative Education	2	講義	2~4
			East Asian Politics	2	講義	2~4
			Applied Phenomenology	2	講義	2~4
			Sociology of Migration	2	講義	2~4
			Psychology of Perception and Cognition	2	講義	2~4
			Globalization Studies	2	講義	2~4
			Social Science Japanese Texts Reading	2	講義	2~4
			Women and Religion in Contemporary Japan	2	講義	2~4
			Seminar in Studies of Multicultural Societies	2	演習	2~4
			Seminar in Cultural Icons in Manga and Anime	2	演習	2~4
Study in Foreign Universities I	2	特別研究	2~4			
Study in Foreign Universities II	2	特別研究	2~4			
Study in Foreign Universities III	2	特別研究	2~4			
Study in Foreign Universities IV	2	特別研究	2~4			
Study in Foreign Universities V	2	特別研究	2~4			
Study in Foreign Universities VI	2	特別研究	2~4			

全学の学部学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内

国際交流科目

大阪大学では、海外の大学から受け入れる交換留学生の教育プログラムとして、英語により授業を実施する国際交流科目を開講しています。全学の教員がその専門に依りて英語による講義を提供しています。この科目は、交換留学生のみならず、大阪大学の学生は誰でも受講し単位を修得することができます。

人間科学部では、2年次秋学期以降に国際交流科目のうち本学部が認める科目から修得した単位は、高度国際性涵養教育科目の単位とすることができます。既に高度国際性涵養教育科目の授業科目の中から2単位を修得している場合は、自由選択枠の単位に算入することができます。

国際交流科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

コミュニケーションデザイン科目

大阪大学では、高等教育における新しい教育の目標として「高度汎用力」の育成を掲げ、コミュニケーションデザイン科目を開講しています。コミュニケーションデザイン科目は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして、学部高学年から大学院博士前期課程を対象に開講されています。

人間科学部では、2年次秋学期以降にコミュニケーションデザイン科目で本学部が認める科目から修得した単位は、高度教養教育科目の単位とすることができます。既に高度教養教育科目として2単位を修得している場合は、自由選択枠の単位に算入することができます。

コミュニケーションデザイン科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

マルチリンガル・エキスパート養成 (MLE) プログラム

大阪大学では、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的として、マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（学部プログラム・大学院プログラム）を開講しています。

人間科学部の学生は、外国語学部が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を体系的に学修することができます。募集対象は2年次・3年次の正規学生で、履修生は選考によって決定されます。プログラムを修了すると、学部プログラム修了認定証が交付されます。

人間科学研究科の学生は、人文学研究科が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を、大阪大学大学院副専攻プログラムとして、体系的に学修することができます。募集対象は博士前期課程学生で、学部プログラム修了生以外の履修生は選考によって決定されます。プログラムを修了すると、大学院副専攻プログラム修了認定証が交付されます。

本プログラムの履修申請手続き、カリキュラム内容の詳細は下記ホームページを検索・参照してください。

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム <http://www.mle.osaka-u.ac.jp>

履修・試験・授業等に関すること

学期の区分及び名称について

大阪大学では1年を4つに区分する「4学期制」を採用しています。各学期の名称及び始期は次のとおりです。授業開講期間は1学期あたり8週となります。

- 春学期：4月1日
- 夏学期：年度毎に定める（6月中旬）
- 秋学期：10月1日
- 冬学期：年度毎に定める（12月初旬）

【令和6年度 人間科学部・人間科学研究科】

（注）令和7年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

春学期： 4月1日 ～ 6月11日	夏学期： 6月12日 ～ 9月30日
秋学期： 10月1日 ～ 12月 2日	冬学期： 12月 3日 ～ 3月31日

授業科目の分類及び名称について

開設する授業科目は、開講する期間により次のとおり分類します。

（1）学期の区分ごとに開講する授業科目：ターム科目

（開講する期間は、春、夏、秋、冬学期となります。）

（2）春学期・夏学期（秋学期・冬学期）の区分ごとに開講する授業科目：セメスター科目

（開講する期間は、春・夏学期、秋・冬学期となります。）

（3）通年にわたり開講する授業科目：通年科目

（開講する期間は、春～冬学期となります。）

（4）特定の期間に集中開講する授業科目：集中講義科目

人間科学部・人間科学研究科の場合、ほとんどの授業科目が（2）のセメスター科目として開講されます。なお、一部の授業科目は（1）のターム科目、または（4）の集中講義科目として開講されます。

集中講義について

人間科学部が開講する授業科目のうち、主に3・4年次に担当する授業科目の一部については、夏季休業中の特定期間を3つのゾーンに区分する中で、集中講義科目として開講します。集中講義の日程及びその開講科目は学生に配付する時間割表及びKOAN掲示板でお知らせします。

【令和6年度 人間科学部・人間科学研究科集中講義】

（注）令和7年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

学 期	ゾ ーン	期 間
夏学期	A	8月26日（月）～ 8月30日（金）
	B	9月 2日（月）～ 9月 6日（金）
	C	9月 9日（月）～ 9月13日（金）

授業時間について

授業時間は次のとおりです。ほとんどの授業科目は時限単位で開講されます。

第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限		第6時限
8:50	休 み	10:30	休 み	13:30	休 み	15:10	休 み	16:50	休 み	18:30
10:20		12:00		15:00		16:40		18:20		20:00

授業時間割表及びシラバスについて

翌年度に開講する授業科目の授業時間割表及びシラバスについては、前年度3月末の時点で確定します。授業時間割表は人間科学研究科ホームページに掲載します。シラバスはKOANから参照してください。

人間科学研究科ホームページ シラバス/時間割掲載ページ

学 部 https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_undergraduate.html

大学院 https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_graduate.html

授業科目の履修登録・履修取消・変更登録について

学生は、履修方法、履修指針、教員の指導等に基づき、シラバス等を参考とし、自ら履修計画を立てて授業科目の選択履修を行わなければなりません。授業科目を履修するためには指定する期限までに、KOAN（学務情報システム）により履修登録を行う必要があります。

なお、履修登録に関する留意事項は次のとおりです。

- (1) 同一時間に開講される科目は、重複して履修登録できません。
- (2) 履修登録をしていない科目については試験を受けることができません。
- (3) 履修科目の追加、変更及び取消は、指定された期間内に行わなければなりません。
- (4) 全学共通教育科目及び他学部等開講科目の履修登録については、人間科学部開講科目とは登録期間等が異なります。
- (5) 他学部等開講科目の履修登録について疑問がある場合は、当該科目を開講する学部等の教務担当係へ確認してください。

【令和6年度 人間科学部・人間科学研究科開講科目の履修登録等期間】

(注) 令和7年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

開講期間（科目分類）	授業開始日	履修登録期間	履修登録変更期間	履修登録取消期間
春～冬学期（通年科目）	4/10(水)	4/1(月) 0:00 ～4/17(水) 13:00	6/12(水) 9:30 ～6/18(火) 16:30	4/23(火) 9:30 ～4/30(火) 16:30
春～夏学期(セメスター科目)	4/10(水)			
春学期（ターム科目）	4/10(水)			
夏学期（ターム科目）	6/12(水)		8/1(木) 9:30 ～8/7(水) 16:30	7/27(木) 9:30 ～8/2(水) 16:30
夏季集中講義	23頁参照			
秋～冬学期(セメスター科目)	10/1(火)	9/24(火) 9:30 ～10/8(火) 13:00	12/3(火) 9:30 ～12/9(月) 16:30	10/15(火) 9:30 ～10/21(月) 16:30
秋学期（ターム科目）	10/1(火)			
冬学期（ターム科目）	12/3(火)			

グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度について

大阪大学では、平成26年度学部入学者からGPA制度を導入しています。

GPA制度は、学修の状況及び成果を示す指標としてのGPAを算出することにより、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的に行われています。

1. GPについて

成績の評価及び各評価に与えられるGPは、以下のとおり定めています。

成績の評価	S (90点以上)	A (80点以上 90点未満)	B (70点以上 80点未満)	C (60点以上 70点未満)	F (60点未満)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

2. GPAについて

当該学期におけるGPA（以下「学期GPA」という。）及び全在学期間におけるGPA（以下「通算GPA」という。）があります。学期GPA及び通算GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点第3位以下を切り捨てるものとします。）

【学期GPAを算出する計算式】

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{(当該学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

【通算GPAを算出する計算式】

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数)の合計} \text{の総和}}{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計)の総和}}$$

3. GPA算出の対象科目について

教養教育系科目、専門教育系科目及び国際性涵養教育系科目のうち、大阪大学学部学則第10条の7第2項に基づく試験の成績の評価を行う授業科目であって、人間科学部において卒業要件に算入できる授業科目とします。

ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとします。

- (1) 本学在学中に他の大学、専門職大学若しくは短期大学（専門職短期大学を含む。以下同じ）において履修した授業科目又は外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ）において履修した授業科目
- (2) 入学前に本学、他の大学、専門職大学若しくは短期大学において履修した授業科目又は外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目（科目等履修生として履修した授業科目を含む）
- (3) 本学在学中に大学以外の教育施設等における学修（短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修）を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えられた授業科目

- (4) 大阪大学学部学則第14条から第15条までの規定による編入学等に伴い、本学の授業科目を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目
- (5) 前各号に掲げるもののほか、各学部学科が別に定める授業科目

4. 「履修取消」について

学生が学期の途中で授業科目の履修を中止したい場合は、学期ごとに定められた履修取消期間内に限り、当該授業科目に係る履修登録を取り消すことができます。履修登録を取り消した授業科目については、学期GPA及び通算GPAの算出から除外します。なお、履修を取消した授業科目については、GPAから除く授業科目となり、学籍情報システム（KOAN）では「W」（Withdrawal）で表示されます。

大阪大学ホームページ/グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/academic_reform/gpa

試験について

1. 原則として、試験は当該授業が開講される学期末に実施します。
2. 履修登録をしていない科目の試験を受けることはできません。
3. レポートをもって試験に代える科目については、提出条件及び期限を厳守してください。
4. 試験の際には、試験監督者の指示に従うほか、次のことに注意してください。
 - (1) 受験者は定刻までに、試験室に入室してください。
 - (2) 解答用紙は、答案記入の有無にかかわらず、提出してください。

試験等（レポート試験等を含む）における不正行為について

試験等（レポート試験等を含む）において、下記にあげる行為等を行った場合は不正行為とみなし、以下の表のとおり、履修した人間科学部・人間科学研究科が開講する授業科目全ての成績評価を無効とします。

- (1) 持ち込み（使用）を許可された教科書、ノート、辞書等以外のものを使用した場合
- (2) カンニングペーパーの使用等、カンニングとみなされる行為を行った場合
- (3) 代人受験とみなされる行為を行った場合
- (4) その他試験監督者の指示に従わない場合
- (5) 授業担当教員が成績評価の対象として求めるレポート等の提出物において、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配布物（公表・未公表を問わない。）の一部または全部を剽窃した場合

不正行為を行った学期	無効となる成績評価の学期
春学期	春学期、夏学期及び春～夏学期の成績評価
夏学期	
春～夏学期	
秋学期	秋学期、冬学期及び秋～冬学期の成績評価
冬学期	
秋～冬学期	

成績評価に関する疑義申し立てについて

成績評価が筆記試験、レポート提出等の結果や出席状況などから判断して、明らかに誤記入（採点ミス、登録ミス）によるものと思われる場合は、成績評価に関する疑義申し立てを行うことができます。なお、成績評価の理由、根拠に関する申し立て及び成績評価についての特別な配慮を求める申し立ては受け付けません。

（疑義の申し立てが可能な期間）

疑義申し立てを行う授業科目の成績発表日から約1週間（土曜・日曜・祝日を除く）の期日で設定される受付期限までとします。（ただし、その他やむを得ない事情があると認められた場合は、この限りではありません。）

（疑義の申し立て手続き）

KOAN掲示板により通知される手続きにより、「成績評価に関する疑義申立書（人間科学部・人間科学研究科）」を提出してください。

授業・試験の欠席について

下記（別表）にあげる事由またはその他のやむを得ない事由により、授業及び試験を欠席した場合は、「欠席・試験欠席届」に医師の診断書または事実の確認できる証明書等を添付のうえ、教務係に提出し、許可を得た後、授業担当教員にその写しを提出してください。授業担当教員の判断により、一定の配慮を行います。

ただし、クラブ活動等の課外活動は、やむを得ない事由に該当しません。

（別表）

欠席事由	配慮を要する期間 （授業等に出席することができない範囲）
学校感染症（学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症）を罹患したことにより出席停止の措置を受けた場合	学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間
親族（2親等以内）が死亡した場合	配偶者・1親等…通夜、葬儀などのために要した日数（連続7日以内）、2親等…通夜、葬儀などのために要した日数（連続3日以内）
「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づく裁判員の選任手続きのため及び裁判員の職務に従事するため裁判所に出頭した場合	裁判所に出頭した日
居住地及び通学経路に係る特別警報が発令された場合	特別警報が発令された日
教職課程の「教育（養護）実習」及び「介護等の体験」に参加する場合	「教育（養護）実習」及び「介護等の体験」の期間

気象警報の発表時等における授業の取扱いについて

- メディア授業（定期試験を含む。以下同じ。）については、この取扱いを適用せず、気象警報の発表時等においても原則として授業を実施します。
- ただし、メディア授業の実施が困難な事象が発生した場合は、授業開講部局の判断により休講とすることがあります。その場合は、KOAN等でお知らせします。
- 学生の皆さんの居住地又は通学経路にある地域に暴風警報又は特別警報が発表された場合、震度5強以上の地震が発生した場合において、避難又はその準備をしなければならない等やむを得ない事情により、メディア授業を受講できない場合には、履修上不利としないよう配慮しますので、人間科学部/研究科授業科目については人間科学研究科教務係、他学部/他研究科開講科目の授業は当該科目を開講する学部等の教務担当係に申し出てください。

1. 気象警報発表時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」、又は「特別警報*」が発表された場合、授業を休講とします。

なお、当該発表が授業開始後の場合は、次の時限の授業から休講とします。

*「特別警報」については大雨、暴風、暴風雪、大雪など内容を限定せず、すべての「特別警報」を対象とします。

2. 公共交通機関の運休時の取扱い

災害により、通学路線のうち以下の公共交通機関のいずれかが運行の休止又は運転の見合せ（以下、「運休」という。）となった場合（一部区間の運休を含む）、当該キャンパスで開講する授業を休講とします。

- ①豊中キャンパス 阪急電車（宝塚線：大阪梅田―宝塚間）又は
大阪モノレール（全線）
- ②吹田キャンパス 阪急電車（千里線：大阪梅田／天神橋筋六丁目―北千里間）又は
大阪モノレール（全線）
- ③箕面キャンパス 大阪メトロ（御堂筋線（北大阪急行路線含む）：梅田―千里中央間）
又は大阪モノレール（全線）

ただし、事故等による一時的な運転見合せについては、休講とはしません。

3. 気象警報又は公共交通機関運休の解除時の取扱い

気象警報又は公共交通機関の運休が解除された場合の取扱いは次のとおりとします。

警報・運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を経過しても解除されない場合	全日授業休業

注1 連合小児発達学研究科については、別途当該研究科からメールにより取扱いを連絡します。

注2 解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によるものとします。

4. 地震発生時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかで震度5強以上の地震が発生した場合、その日の授業を休講とします。ただし、地震の発生が午後5時15分以降の場合は、翌日の授業も休講とします。

また、地震が当該地域以外で発生した場合又は震度5強未満の場合は、公共交通機関の運行状況に応じて対応することとし、上記2の取扱いに従うこととします。

5. 災害に伴う避難勧告又は避難指示発令時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかの市から、災害に伴う避難勧告又は避難指示（以下「避難勧告等」という。）が発令された地域（以下「避難地域」という。）に所在する部局においては、授業を休講とする場合があるので、部局からの連絡に従ってください。

6. その他

- (1) この取扱いに該当しないため授業を実施する場合であっても、学生の皆さんの居住地又は通学経路にある地域で、上記1と同様の気象警報が発表された場合、上記4と同様の地震が発生した場合、上記2以外の公共交通機関が運休した場合等やむを得ない事情により授業を欠席した場合は、履修上不利益とならないよう配慮しますので、授業開講部局又は所属部局の教務担当係に申し出てください。
- (2) 気象警報の発表、公共交通機関の運休又は避難勧告等の発令が事前に予想される場合、又は緊急に休講措置の必要が生じた場合は、大学ホームページ又はKOANIにおいて通知します。

学科目所属・卒業論文に関すること

学科目の所属について

1年次から2年次の夏学期までは、主に全学共通教育科目と専門教育科目（基礎科目）の授業を中心に学びますが、2年次の秋学期からは、行動学、社会学、教育学、共生学のいずれかの学科目に所属し、それぞれの学科目の授業を中心に専門的な見識を深めていきます。

学科目志望届及び所属学科目の決定について

所属学科目の決定は2年次に行いますが、その振分けのスケジュールは次のとおりです。なお、学科目配属の際、志望者数が基準を超えたときは選考を行いますので、必ずしも志望する学科目、専門分野に進めるとは限りません。なお、下記の「ガイダンス」は人間科学部の正課の一環ですので、必ずすべて出席してください。（課外活動等による欠席は認めません。）

- ① 1年次終了時点までに希望する学科目を検討しておいてください。
- ② 2年次の4月初旬頃にKOANアンケートにて「学科目志望調査票」を提出します。なお、この「学科目志望調査票」の提出が最終的な志望の届出ということではありません。
- ③ 2年次の8月上旬頃に、KOANアンケートにて「学科目志望届」を提出します。「学科目志望届」の内容は、**後から変更することはできませんので、慎重に検討してください。**
- ④ 2年次の8月下旬頃にKOAN掲示板等により、各学科目の志望状況等を考慮して決定した所属学科目の振分けを発表します。
- ⑤ 2年次の9月下旬頃に**学科目別ガイダンス**で所属決定後に学科目ごとに集まり、2年次秋学期以降の履修指導等が行われます。

※配属決定後は所属学科目の変更は一切できません。

卒業論文の提出について

学部を卒業するためには、修業年限の4年以上在学し、大阪大学人間科学部規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、卒業論文を提出して審査（口頭試問を含む）に合格しなければなりません。卒業論文は、指導教員等による指導を仰ぎながら、その準備並びに執筆を進めていきます。卒業論文の提出に係る手続き事項については、KOAN掲示板等によりお知らせします。なお、概要は次のとおりです。

- ① 学部4年次の卒業予定者は、あらかじめ指導教員の承認を得て論文題目を決定し、所定の期限までに教務係に卒業論文題目を提出してください。なお、期限に遅れた場合、理由の如何を問わず卒業論文は受理しません。

＜提出期限＞	卒業論文題目提出	11月中旬の指定する期日及び時間
	卒業論文提出	1月上旬の指定する期日及び時間
（注）卒業論文提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。		

- ② 論文の体裁及び枚数等は指導教員から指示されます。論文は散逸せぬよう綴じ込み、表紙に論文提出票を付してください。
- ③ 論文提出のための各種所定用紙はKOAN掲示板により配付します。
なお、卒業論文を提出できない学部4年次の学生は、論文題目届の提出期限までに「卒業論文提出延期願」を提出しなければなりません。

< x ɛ >

令和6年度（2024年度）

大阪大学人間科学部
大阪大学大学院人間科学研究科

修学・学生生活関連ガイド

修学・学生生活等における諸事項

学生に対する通知・連絡について

学生に対する重要連絡は原則としてKOAN（学務情報システム）及び学内の掲示板によって行いますので、毎日掲示板を見るよう習慣づけてください。

連絡には授業の休講・補講や学費免除・各種奨学金申請等の事項も含まれます。これらの通知を見落とししたことで生じる不都合・不利益は全て学生本人の責任となりますので注意してください。

(1) KOAN（学務情報システム）

「マイハンダイ」(<https://my.osaka-u.ac.jp>) から自分の大阪大学個人 ID とパスワードでログインし、「KOAN」アイコンをクリックしてください。

※ KOAN からのメールによる連絡について

- ・ KOAN からの特に重要な連絡は、大阪大学から全学生に配付されているメールアドレス (u*****@ecs.osaka-u.ac.jp) に送信されます。
- ・ メールは KOAN サイト上から確認するほか、スマートフォンやパソコンのメールアドレスに転送することが可能ですので、必ず転送設定をしましょう。また、転送先のメールアドレスを使わなくなった場合は、その都度、速やかに使用しているメールアドレスへの転送を再設定する必要があります。
(詳細はマイハンダイから「KOAN（もっと詳しく）のFAQ日本語版（学生）」を参照してください。)

※ KOAN による住所・連絡先登録について

- ・ 緊急連絡や書類送付の必要がある場合は、上記のほか、電話、メール、郵送等により連絡を行うことがありますので、登録情報に変更があった場合は速やかに登録内容を修正しましょう。(KOAN サイト上から簡単に変更が可能です。)

(2) 学内掲示板

○本館1階：大学全体にかかる通知、人間科学研究科が主催する各種イベントの案内

○本館2階：授業実施関係、行事予定、その他

○東館2階：各種案内掲示

○国際交流室（本館2階）：留学生関係、海外留学・奨学金関係

○学生支援室（本館2階）：就職・進学・インターンシップ関係

*学系独自の掲示板もあります。(行動：3階、教育：4階、社会・人間：5階)

*他学部・他研究科の授業科目等の通知については、当該学部・研究科の掲示によります。

学生証等について

学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、証明書自動発行機、図書館（室）の利用、学内各窓口での提示等にも使用します。通学定期券発行控と共に所定のケースに収納し、汚損・破損・紛失しないように大切に取扱い、登校の際は必ず携帯するとともに、次の事項に留意してください。

- ① 学生証の有効期限は修業年限（学部生—4年、第3年次編入学生—2年、博士前期課程学生—2年、博士後期課程学生—3年）までです。修業年限を超えて在学する場合は年度単位で再発行します。
- ② 通学定期乗車券発行控は毎年度当初に更新しますので、通学定期券を購入前に教務係で受領してください。
- ③ 学生証及び通学定期乗車券発行控は他人に貸与、または譲渡してはいけません。
- ④ 学生証及び通学定期乗車券発行控の不正使用をしてはいけません。万が一、不正使用が発覚した場合には厳正に対処します。
- ⑤ 学生証は定期試験の際や、各種証明書等の申し込み、証明書自動発行機の利用、その他本学職員に請求された時は、必ず提示してください。
- ⑥ 学生証の記載内容に変更が生じた場合には、直ちに教務係に届け出てください。
- ⑦ 学生証を紛失または汚損・破損・磁気不良により使用できなくなった場合は各キャンパスの窓口（吹田キャンパス：大阪大学本部棟地下1階 教育・学生支援部教育企画課学務情報係、豊中キャンパス：学生交流棟2階豊中学生センター、箕面キャンパス：外国学研究講義棟2階箕面学生センター）で再発行等の手続きを行ってください。
- ⑧ 通学定期乗車券発行控を紛失した場合は教務係に申し出てください。なお、紛失した学生証、通学定期乗車券発行控が見つかったときは、直ちに教務係に返付してください。

学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出について

学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出は次のとおりです。各所定様式については教務係で配付します。なお、*を付した届け出は、別の項に詳細を掲載しています。

提出先：教務係

提出書類等	提出等期限	備考
*休学願	異動希望日を含む月の前々月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	「指導教員所見（様式）」を併せて提出すること。 ※理由によっては別途、証拠書類等の提出が必要。
復学願	異動希望日を含む月の前々月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	※理由によっては別途、証拠書類等の提出が必要。
復学届	復学年月日を含む月の前々月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	※理由によっては別途、証拠書類等の提出が必要。
*退学願	異動希望日を含む月の前月の20日（休日の場合は直後の教務係開室日）まで【厳守】	
改姓（改名）・転籍届	その都度（速やかに提出）	※別途、証拠書類等の提出が必要。
本人、保護者の住所、電話番号等の変更	その都度（速やかにKOANで変更登録）	大学から重要な電話（メール）連絡・郵送等を行うことがあるので必ず登録を行うこと。 ※手続きを怠ったことにより連絡等を受けられなかったことに伴う不利益は全て学生本人の責任となります。
*海外活動届及び海外渡航届	渡航日の3カ月以上前	留学や調査研究等で海外に渡航する場合は必ず相談すること。また、必ず「海外渡航届システム」 (https://www.abroad.icho.osaka-u.ac.jp/system/) に入力するとともに、「たびレジ（外務省海外旅行登録）」 (https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/)にも登録すること。
一時帰国届（留学生のみ）	帰国日の1週間以上前	留学生は、一時日本を離れるときは、短期・長期に関わらず提出してください。また、必ず「海外渡航届システム」 (https://www.abroad.icho.osaka-u.ac.jp/system/) に入力すること。
*長期履修申請		大学院生のみ対象（申請条件あり）

(1) 在学年限及び休学（可能）期間

- ① 大阪大学学部学則に基づき、学部の在学年限は、休学期間を除き、8年（3年次編入学生は4年）と定められています。また、休学（可能）期間は通算で4年（3年次編入学生は2年）と定められています。
- ② 大阪大学大学院学則により、博士前期課程の在学年限は休学期間を除き4年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で2年と定められています。
- ③ 大阪大学大学院学則により、博士後期課程の在学年限は休学期間を除き5年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で3年と定められています。

(2) 休学

休学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に休学願を提出し許可を得てください。

- ① 病気、その他やむを得ない理由で3ヶ月以上修学できない場合は、その学年の終わりまで休学をすることができます。なお、実際に休学した期間は、在学年数には算入されません。
- ② 人間科学部・人間科学研究科では、国内外での調査研究を理由とする休学は認めていません。
- ③ 未納の授業料がある場合には休学は認められません。
- ④ 休学期間中にその事由が消滅した場合、復学を願い出ることができます。なお、休学期間の満了により復学となる場合も「復学届」の提出をもってその意思を申し出る必要があります。

(3) 退学

退学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に退学願を提出し許可を得てください。

- ① 未納の授業料がある場合には退学は認められません。
- ② 在学年限の満了により以降在籍できない場合において、「退学願」が期限までに提出されない場合には、在学年限満了日をもって身分喪失とします。

長期履修制度について（大学院生のみ）

長期履修制度とは、大学院学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することができる制度です。

申請対象者及び長期履修可能年数は次のとおりです。長期履修を申請する場合の在学年限は、博士前期課程は4年、博士後期課程は5年を限度とし、学年の始めから開始となります。申請の可否は審査により決定します。また、既に長期履修を許可された者で、事情により期間の変更を希望する者は期間変更申請を行う必要があります。

長期履修制度の申請等に関することは、KOAN 掲示板により通知を行いますが、詳細は教務係に問い合わせてください。

<申請対象者>

下記事由により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することが認められた者。ただし、各課程最終学年の者を除きます。

- (1) 定まった職業を有する者（一つの勤務場所において週30時間以上の就労者に限る。）
- (2) 出産・育児・介護・病気や障がいに伴う療養等を行う必要のある者

証明書の交付等について

本学では、証明書自動発行機により、学割証・在学証明書・健康診断証明書・成績証明書・卒業（修了）見込証明書・卒業（修了）証明書（学内の内部進学者のみ）が発行されます。なお、発行の際には学生証が必要です。

◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

キャンパス	設置場所		台数	利用時間（月～金曜日） 祝日、年末・年始を除く
豊 中	全学教育推進機構管理・講義棟（A棟）	2階教務係前	1台	8：30～17：00
	豊中学生センター学生交流棟	2階ホール	2台	8：30～17：00
吹 田	医学部医学科共通棟	1階玄関	1台	8：30～17：00
	工学部管理棟U1M棟	1階教務課横	2台	8：30～17：00
	吹田学生センターICホール	1階	1台	8：30～17：00

※豊中、吹田地区のみ掲載

◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

証明書の種類	発行対象
（学部・大学院共通） 学割証（1日3枚、年間10枚まで） 在学証明書 健康診断証明書 （学 部） 成績証明書 卒業見込証明書（最終年次の学生のみ） （大学院） 成績証明書 修了見込証明書（博士前期課程最終年次の学生のみ）	在学する課程
（学 部） 成績証明書 卒業証明書 （大学院） 成績証明書（博士前期（修士）） 修了証明書（博士前期（修士））	卒業（修了）した課程 本学学部を卒業し、引き続き本学の大学院に入学した者 本学研究科博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学した者

* 大学に英語氏名の登録をしている学生については、英語版の証明書も出力できます。

* 上記以外の証明書は教務係窓口申請してください。証明書の種類（英文証明書、教職単位の修得に関する証明書等）や申請の時期などにより、交付までに時間を要する場合がありますので、余裕をもって申請してください。

オフィス・アワーについて

人間科学部・人間科学研究科ではオフィス・アワー（授業内容等に関する学生の質問等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す時間帯）を設定し、その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問することができます。

人間科学研究科ホームページ オフィス・アワー

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/officehour.html>

卒業・修了後の進路について

卒業・修了年次の学生（現在職を持っている方で、卒業・修了後もその職を継続される方及び博士後期課程にあっては単位修得退学者も対象）は、「進路・就職報告システム」で必ず進路情報・就職先の情報を登録しなければなりません。報告期限（その後の更新は可能）は、原則卒業論文、修士学位論文、博士学位論文の題目届提出期限の期日としています。

※報告期限までに入力できない場合は、学位授与式までには必ず入力を済ませてください。

気象警報発令時における学内連絡バスの運行について

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか、またはこれらの市を含む地域」に暴風警報又は特別警報が発令された場合、又は、公共交通機関の運休により全キャンパスにおける授業が休講となる場合、学内連絡バスの運行は下記のとおりです。

- 午前6時以前に警報・運休が解除された場合 → 時刻表どおり運行
- 午前9時以前に警報・運休が解除された場合 → 午前12時以降運行（午前運休）
- 午前9時に警報・運休が解除されない場合 → 終日運休

学生の団体結成について

学生が学部・研究科内で団体等を結成しようとするときは、所定の様式により、事前に教務係に届け出て承認を受ける必要があります。全学的な団体等の結成については、学生センターに届け出て承認を受けてください。許可された団体は、毎年5月中旬に届出の更新をしなければいけません。また届出事項が変更したときも同様の手続きが必要です。この時に更新が行われない場合は、当該団体は解散したものとみなされます。なお、団体の結成、更新において、次に該当する場合は許可されないことがあります。

- (1) 団体等の目的及び団体の構成員氏名が明らかでないとき
- (2) 団体等の結成が学内の秩序を乱す恐れがあるとき
- (3) その他学部長・研究科長が不相当と認めるとき

海外留学について

大阪大学では様々なプログラムによる海外留学を積極的に推進しています。

○大阪大学交換留学（大学間派遣）

大阪大学と授業料等の相互不徴収及び単位互換等を明記する学生交流協定を締結している海外の大学（以下「協定校」という。）において、本学の学部又は大学院の正規課程に在籍する学生が、本学に在籍したまま、協定校で概ね1年以内の1学期又は複数の学期の間、科目の履修又は研究指導等の教育・研究の機会を得ることができます。

募集要項等の詳細については、下記大阪大学ホームページを検索・参照してください。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html

○大阪大学交換留学（部局間派遣）

人間科学部と学生交流協定を締結している協定校における交換留学については、人間科学研究科国際交流室にお問い合わせください。

○短期語学研修プログラム

大阪大学では多様な海外研修プログラムを実施しています。大阪大学ホームページ、KOAN掲示板及び国際交流室前掲示板にてお知らせしています。

学生の海外渡航について

学生が、教育・研究上の目的で海外渡航する場合は、事前に指導教員・受入れ教員及び家族等に渡航内容等を十分に説明し、指導教員・受入れ教員の承認を得たうえで、所定の届出様式を教務係に提出する必要があります。

（注1）外務省危険情報及び外務省感染症危険情報（以下、「外務省」省略）が出されていない地域への渡航であっても届出は必要です。

（注2）学部学生（研究生等を含む）で「危険情報：危険度1」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」の地域への渡航を予定している場合は、渡航2ヶ月前までに必要書類を教務係まで提出してください。

（注3）大学院生（大学院研究生等を含む）で「危険情報：危険度1・2」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」の地域への渡航を予定している場合は、渡航2ヶ月前までに必要書類を教務係に提出してください。

（注4）学部学生（研究生等を含む）で「感染症危険情報：危険度1」の地域への渡航を予定している場合は、渡航1ヶ月前までに必要書類を教務係まで提出してください。

（注5）大学院生（大学院研究生等を含む）で「感染症危険情報：危険度1」の地域への渡航を予定している場合は、渡航1か月前までに必要書類を教務係まで提出してください。

（注6）学部学生（研究生等を含む）が「危険情報：危険度2以上」の地域及び「感染症危険情報：危険度4以上」に渡航すること、大学院生（大学院研究生等を含む）が「危険情報：危険度3以上」の地域及び「感染症危険情報：危険度4以上」に渡航することは原則として認めません。

ただし、指導教員等が同行する場合は、渡航を認める場合があります。

また、学部学生（研究生等を含む。）が「危険情報：危険度1」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」に渡航する場合、大学院学生（大学院研究生等を含む。）が「危険情報：危険度1・2」の地域及び「感染症危険情報：危険度2・3」に渡航する場合には、本研究科の海外研究活動検討委員会で渡航の可否について審議します。審議の結果によっては渡航の見送り等を指示することもあります。

なお、海外渡航滞在中に、その地域の危険度（感染症危険情報危険度も含める）が、認められている範囲を超えて引き上げられた場合は、ただちに指導教員と連絡を取り、自らの安全確保と情報収集に努めるとともに、もっとも安全な方法によってすみやかに危険地域外に退避してください。

提出書類

<危険情報は外務省海外安全ホームページの危険情報及び感染症危険情報に基づきます>

提出書類（所定の届出様式）は次のとおりです。危険度に応じて必要書類が異なります。「海外危険地域への渡航に関する人間科学研究科の取扱い方針」に従って作成提出してください。

- ① 海外活動届（指導教員の押印が必要）及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」
- ② 海外渡航届（「海外渡航届システム」に渡航情報を登録後に両面を印刷）
※上記①②は、危険度に関わらず（危険情報が出されていない場合であっても）必ず提出及びオンライン登録が必要です。
※上記①の別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」については、
ア）留学や学会出席の場合は、留学先大学、参加学会の名称、開催日程等を記入していること。
イ）調査研究活動の場合は、現地での調査内容や研究計画の詳細（現地での調査研究活動は人間科学研究科の研究倫理審査の承認を含む。）を記入していること。
- ③ 指導教員あるいは受入れ教員の署名押印のある理由書（任意の様式・指導教員の押印が必要）
※上記③は、危険情報の危険度1以上及び感染症危険情報の危険度2・3の地域に渡航する場合には必ず提出が必要です。危険情報が出されている地域への具体的な渡航理由や安全面における対応・対策等（渡航日程と訪問先、渡航目的、経費の出所、渡航地域の危険度に関する情報、安全確保の方法、感染症への対策など）を理由書として提出すること。
- ④ 「渡航確認シート・新型コロナウイルス感染症の影響により感染症危険情報（危険度2・3）に指定された国・地域への渡航前に確認すべき項目」（指導教員の確認が必要）及び誓約書
※上記④は新型コロナウイルス感染症により感染症危険情報：危険度2・3地域への派遣の場合には必ず提出が必要です。

提出書類など（渡航先の危険度別）

学部学生（研究生等を含む。）

		「海外活動届」 及び別紙 「渡航目的及 び活動内容の 詳細」	海外渡航届 システムへの 渡航情報登録	理由書	渡航確認 シート 及び誓約書	外務省 「たびレジ」 又は 「ORRnet」 への登録					
外務省 「危険情報」	危険情報なし	○	○	○	/	○					
	レベル 1										
	レベル 2						原則として渡航不可				
	レベル 3										
	レベル 4										
外務省 「感染症 危険情報」	危険情報なし	○	○	/	/	○					
	レベル 1										
	レベル 2						○	○			
	レベル 3										
	レベル 4								原則として渡航不可		

大学院学生（大学院研究生等を含む。）

		「海外活動届」 及び別紙 「渡航目的及 び活動内容の 詳細」	海外渡航届 システムへの 渡航情報登録	理由書	渡航確認 シート 及び誓約書	外務省 「たびレジ」 又は 「ORRnet」 への登録					
外務省 「危険情報」	危険情報なし	○	○	○	/	○					
	レベル 1										
	レベル 2						原則として渡航不可				
	レベル 3										
	レベル 4										
外務省 「感染症 危険情報」	危険情報なし	○	○	/	/	○					
	レベル 1										
	レベル 2						○	○			
	レベル 3										
	レベル 4								原則として渡航不可		

※教育・研究を目的とした海外渡航による帰国後は教務係に帰国した旨の連絡をすること。
（方法は自由）

※感染症危険情報が危険度2・3に指定された国・地域へ大学間交換留学・部局間交換留学
や部局等が実施する派遣プログラムにより派遣する海外派遣は、①海外活動届及び③指導
教員あるいは受入れ教員の署名のある理由書の提出は必要ありません。

「海外渡航届システム」へは、下記URLからログインしてください。

<https://www.abroad.icho.osaka-u.ac.jp/system/>

「海外危険地域への渡航に関する人間科学研究科の取扱い方針」の閲覧および
各提出書類の入手は、以下のURLから行ってください。

https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/international_exchange/before_going_abroad.html

留学生危機管理サービス（OSSMA）について

人間科学部・人間科学研究科では、学生が海外渡航（旅行および一時帰国を除く）を行う場合、留学生危機管理サービス（OSSMA）の加入を義務付けています。OSSMAは、海外渡航中に困りごとや相談したいことが発生した場合に、24時間365日、日本語で適切なサポートが受けられるサービスです。保険ではありませんので、本サービス加入と合わせ、必ず海外旅行保険にも加入してください。詳細は下記ホームページを確認してください。

※旅行および一時帰国を除く

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/Studyabroad_crisis_management/6jweek

健康管理・学生相談

学生定期健康診断について

学生定期健康診断は、学校保健安全法及び大阪大学学生健康診断規程で受検が義務付けられている健康診断です。全学生が必ず受検しなければなりません。毎年4月の指定する期間に実施されますが、日時、場所等についてはKOAN掲示等でお知らせします。

なお、特に学部卒業年次・大学院修了年次の学生は、この学生定期健康診断を受検していない場合には、就職や進学の際に必要な健康診断書が発行されませんので注意してください。

キャンパスライフ健康支援・相談センターの診療について

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センターは、豊中本室、吹田分室、箕面分室において、学内の保健管理、健康相談、疾病予防、救急措置、精神衛生相談等を主な業務として、学生・教職員の健康保持、健康増進を図っています。キャンパスライフ健康支援・相談センター保健管理部門には、医師、看護師、臨床検査技師等が勤務し、診察や健康相談等を行っています。女性のカウンセラーや医師による女性専門の外来も開設しています。受付時間、診察・相談等の対応時間及び診療科ごとの週間診療予定表など、詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター <https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/>

全学各種相談窓口

■キャンパスライフ健康支援・相談センター相談支援部門（全学）

キャンパスライフ健康支援・相談センター相談支援部門は、学生や教職員の皆様のさまざまな困り事や悩み事についての相談へ応じたり、支援を提供したりする部門です。学生の皆様を対象にした活動としては、1) 学生相談（カウンセリング）、2) アクセシビリティ支援（障がいや慢性疾患を有する学生の支援）、3) ピア活動支援（学生どうしの助け合いの支援）、4) アセスメント（障がいや性格特性等についてのアセスメント）などがあります。

また、保健管理部門との連携のもとに、なんでも相談窓口を設け、学生や教職員の皆様がどこに相談すればよいか分からないと感じたときに気軽に利用していただけるような体制を整えています。それぞれの相談予約など、詳細はホームページを確認してください。

○学生相談

本学の学生であれば誰でも、同部門の学生相談室を利用することができます。学生相談室は、どのような悩みでも受け付けており、経験を積んだカウンセラーがあなたの話を親身になって聴いて、悩みの解決に協力します。相談内容や来談者氏名は誰にも知られないよう秘密は厳守されます。

（事前に相談予約が必要）

○アクセシビリティ支援

同部門のアクセシビリティ支援室は、障がいを持っている学生だけではなく、大学生活で困難を感じているすべての学生に対してアドバイスや情報の提供などを行っています。

（事前に相談申し込みが必要）

○ピア相談

学業、進路、人間関係の悩みのほか、サークル活動や経済上の問題など、学生生活上のこと
がらについて、本学大学院人間科学研究科で臨床心理学を専攻している大学院生（ピア・アド
バイザー）が、同じ世代の立場からお話を聞きます。

（事前に相談予約が必要）

○なんでも相談

どこかで相談したいが、どこに行けばよいかよく分からないというような相談や SOGI 相談
等をお受けし、適切な学内外の相談支援機関や医療機関を紹介します。

必要に応じ、紹介先の機関と連携や連絡をとりあって、相談がスムーズに進むようにサポー
トします。

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター相談支援部門

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/sodansien/>

○ハラスメント相談室（全学）

大阪大学では、ハラスメントのない大学を目指し、その発生の防止や解決に取り組んでいます。
各キャンパスには、全学のセクシュアル・ハラスメント相談室及びアカデミック・パワー等ハ
ラスメント相談室がそれぞれ設置されており、各相談室では、専門の相談員（カウンセラー）
が問題の解決にあたっています。なお、全学のハラスメント関連相談室での相談を希望する場
合は、事前に電話予約を行ってください。詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センターハラスメント相談室

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/prevention_sh

■キャリアセンター（全学）

キャリアアドバイザーに就職相談（進路相談）ができます。予約システム（進路・就職相談予
約管理システム）で希望日時・キャンパスの予約をしてください。オンライン・対面による相
談に対応しています。詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学キャリアセンター <https://career.osaka-u.ac.jp>

人間科学部・人間科学研究科相談窓口

○就職・進路相談、学生相談

人間科学部・人間科学研究科では、専任教員が学生の就職・進路に関する相談、学生の生活
上の諸問題の相談に応じ、問題解決の援助を行うために、学生支援室を設置しています。

学生支援室に相談したいことがあれば、下記アドレスまでご連絡ください。

人間科学部・人間科学研究科学生支援室（人間科学部本館 2 階北ウイング）

➤ 専用メールアドレス：student☆hus.osaka-u.ac.jp

※メール送信時には、「☆」を「@」に置き換えてください。

人間科学部・人間科学研究科学生支援室 <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/ssso/>

○障がい等のある学生相談

人間科学部・人間科学研究科に在籍する障がい等のある学生に対する相談窓口を設置しています。障がい学生相談窓口では、修学上の配慮を希望するなど、障がい等のある学生の支援に関する相談を受け付けていますので、相談を希望する方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。相談内容については、秘密を厳守したうえで、担当者がご相談に対応いたします。

- 相談専用メールアドレス：shien☆hus.osaka-u.ac.jp
※メール送信時には、「☆」を「@」に置き換えてください。

人間科学研究科学生相談（学部・大学院）

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/support.html>

○人間科学研究科ハラスメント相談室

人間科学研究科にもハラスメント相談室が設置されており、各相談員が相談に応じています。ハラスメントの被害に遭ったときや周囲の人が被害に遭って困っているときは、まずは人間科学研究科ハラスメント相談室にご相談ください。相談員は、相談者の名誉やプライバシーを堅く守ります。詳細は下記ホームページを確認してください。

人間科学研究科ハラスメント相談室 <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/harassment/>

保険・リスク管理

学生教育研究災害傷害保険（学研災）について

学生教育研究災害傷害保険（学研災「がっけんさい」）は、学校行事中、学校施設内にいる間、学校施設内外での課外活動中又は通学中・大学施設間移動中に被ったケガに対し、その治療日数に応じて保険金が支払われる全国規模の補償制度であり、大阪大学では入学時に全員が加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加、海外へ留学する場合などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

加入方法の詳細、保険金の内容、保険金の請求手続き等については、下記ホームページを参照してください。

【問い合わせ先】

豊中生協事務所（総務部）保険担当（豊中キャンパス・豊中福利会館4階）

06-6841-3326

吹田工学部生協事務所保険担当（吹田キャンパス・センテラス2階）

06-6877-6509

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/insurance.html>

学生教育研究賠償責任保険（学研賠）について

学生教育研究賠償責任保険（学研賠「がっけんばい」）は、正課、学校行事、課外活動として大学が認めたインターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動およびその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことにより被る法律上の損害賠償を補償します。「学研災」に先に加入していなければ、「学研賠」に加入することはできません。加入希望者は必ず「学研災」に加入していることを確認のうえ、大学生協の保険窓口で必要書類を受け取り、郵便局の窓口で保険料を払い込んでください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、「学研災」と同様に、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

留学生危機管理サービス（OSSMA）について

人間科学部・人間科学研究科では、学生が海外渡航（※）を行う場合、留学生危機管理サービス（OSSMA）の加入を義務付けています。OSSMAは、海外渡航中に困りごとや相談した

いことが発生した場合に、24時間365日、日本語で適切なサポートが受けられるサービスです。保険ではありませんので、本サービス加入と合わせ、必ず、海外旅行保険にも加入してください。詳細は下記ホームページを確認してください。

※旅行および一時帰国を除く

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/Studyabroad_crisis_management/6jweek

抗体検査の検査料の補助について

人間科学部・人間科学研究科では、多くの学部学生や大学院生が、保育所・幼稚園・小学校・中学校、さらには社会福祉施設や病院等の外部機関・外部施設において、実習や研究活動を行っています。このような現場に出かける際には「事前予防」に留意しながら、「病気を持ち込まない、持ち帰らない」こと、あるいは「病気の発生源にならないこと」が、学生自身及び現場の人々の健康や安全を守るためにも重要なことであり、リスク管理の観点からも強く求められています。また、人間科学研究科に来校する外部の者（心理相談者、実験協力者等）に対応する学生についても、同様の配慮が必要となります。

このことから、人間科学部・人間科学研究科の学生が、外部機関等において実習や研究活動を行う場合、または人間科学研究科に来校する外部の者に対応予定の場合には、抗体検査（風疹、麻疹、水痘、ムンプスの4種）を受けることになっており、人間科学部・人間科学研究科の該当学生を対象に、毎年5月と10月の年2回、抗体検査（風疹、麻疹、水痘、ムンプス）の検査料の補助をしています。申し込み期間（指導教員・クラス担任を通じて教務係へ申し込む）等についてはKOAN掲示板等でお知らせします。

安否確認システムについて

大阪大学では、2018年6月18日に発生しました大阪府北部を震源とする地震を受け、学生及び教職員等の安否確認を速やかに行い、大学として必要な支援を検討・実施するために、「マイハンダイ」を利用した安否確認システムを構築しています。安否確認システムへの入力対象となる災害が発生した場合は、マイハンダイ（<https://my.osaka-u.ac.jp/>）にログインして安否確認情報を入力してください。

【入力対象となる災害】

- ・大阪府、兵庫県のうち、神戸市・芦屋市・西宮市・尼崎市・明石市・宝塚市・川西市・伊丹市・三田市のいずれかで、震度5強以上の地震が発生した場合。
- ・上記以外の地震、他の災害（自然災害、テロ等）で安否確認システムによる安否確認を実施する場合は、大学HP等でお知らせします。

その他リスク管理について

教育研究活動、学生生活には、常にあらゆるリスクが内在しています。人間科学研究科・人間科学部では、安全対策やリスク管理のガイドブック「リスクのくすり」を作成し、人間科学研究科のHP上で閲覧できるようにしています。必ず読むようにしてください。

資格・免許

教育職員免許状

大学を除くすべての国公立学校の教員（常勤、非常勤を問いません）になるためには、それぞれ相当の教員免許状を有する必要があります。本学部・研究科で取得できる免許状は下表のとおりです。

例年4月初旬に大阪大学全体での教職課程ガイダンスが行われます。教育職員免許状取得希望者は参加してください。

教員免許状の取得については、上記の教職課程ガイダンスで配布される『大阪大学【教職課程ブックレット】①《教職課程への招待》』を参照してください。（教務係でも入手可能です。）

なお、教職課程及び教員免許状に関する連絡は、すべてKOAN掲示板により行われます。

課 程	免許状の種類	免許状の教科
学 部（人間科学部）	中学校教諭一種免許状	社会
	高等学校教諭一種免許状	地理歴史、公民
大学院（人間科学研究科）	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史、公民

大阪大学ホームページ／教職課程

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career/teacher/teacher-certification-course>

公認心理師

国家資格公認心理師は、保健医療、福祉、教育等の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理に関する支援を要する人々への業務に従事します。その内容には、心理状態の観察とその結果の分析、心理に関する相談及び助言・指導等の他、関係者に対する援助や、心の健康に関する教育・情報提供が含まれます。

公認心理師資格試験の受験資格を得るためには、大学において心理学等に関する所定の科目（表1）を修め、かつ、大学院において心理学等の所定の科目（表2）を修めてその課程を修了することが求められます。その他、大学で心理学等に関する所定の科目を修めて卒業後、養成プログラムを備えていると認定された施設において、一定期間の実務経験を積んで受験資格を得ることも認められていますが、その施設は少数です（令和5（2023）年12月1日現在）。

表1. 大学における必要な科目

公認心理師省令科目名称		単位数	左記に該当する本学部の開講科目
A. 心理学基礎科目	公認心理師の職責	2単位	公認心理師の職責
	心理学概論	2単位	行動学概論（心理学概論）
	臨床心理学概論	2単位	臨床心理学概論
	心理学研究法	2単位	臨床教育学実験実習Ⅲ（心理学研究法） 人間行動学実験実習Ⅲ（心理学研究法） 行動生態学実験実習Ⅲ（心理学研究法）
	心理学統計法	2単位	心理学統計法
	心理学実験	2単位	心理学実験
B. 心理学発展科目 基礎心理学	知覚・認知心理学	2単位	基礎心理学（知覚・認知心理学） 応用認知心理学（知覚・認知心理学）
	学習・言語心理学	2単位	学習生理学（学習・言語心理学）※
	感情・人格心理学	2単位	感情・人格心理学 感情・人格心理学（理論と実践）
	神経・生理心理学	2単位	認知心理生理学（神経・生理心理学）
	社会・集団・家族心理学	2単位	社会・集団・家族心理学
	発達心理学	2単位	比較発達行動学（発達心理学）
	障害者・障害児心理学	2単位	共生の人間学Ⅰ（障害者・障害児心理学）
	心理的アセスメント	2単位	臨床教育学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント） 人間行動学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント） 行動生態学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）
	心理学的支援法	2単位	心理学的支援法
B. 心理学発展科目 実践心理学	健康・医療心理学	2単位	健康・医療心理学 行動医学・健康行動論
	福祉心理学	2単位	臨床死生学・老年行動学（福祉心理学）
	教育・学校心理学	2単位	教育・学校心理学
	司法・犯罪心理学	2単位	司法・犯罪心理学
	産業・組織心理学	2単位	産業心理学（産業・組織心理学）
B. 心理学発展科目 心理学関連科目	人体の構造と機能及び疾病	2単位	人体の構造と機能及び疾病
	精神疾患とその治療	2単位	精神疾患とその治療
	関係行政論	2単位	関係行政論
C 実習演習科目	心理演習	2単位	臨床教育学実験実習Ⅱ（心理演習） 人間行動学実験実習Ⅱ（心理演習） 行動生態学実験実習Ⅱ（心理演習） 認知行動工学演習Ⅱ（心理演習）
	心理実習	2単位	心理実習

※ 隔年開講

表 2. 大学院における必要な科目

公認心理師省令科目名称	単位数	左記に該当する本研究科の開講科目
A.心理実践科目		
保健医療分野に関する理論と支援の展開	2単位	保健医療分野に関する理論と支援の展開
福祉分野に関する理論と支援の展開	2単位	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ（福祉分野に関する理論と支援の展開）
教育分野に関する理論と支援の展開	2単位	教育分野に関する理論と支援の展開
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2単位	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2単位	安全行動学特講Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）※
心理的アセスメントに関する理論と実践	2単位	比較発達心理学特講（心理的アセスメントに関する理論と実践） 臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
心理支援に関する理論と実践	2単位	臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践） 心理支援法特講（心理支援に関する理論と実践）
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2単位	共生行動論特講Ⅰ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
心の健康教育に関する理論と実践	2単位	心の健康教育に関する理論と実践
B. 実習科目		
心理実践実習Ⅰ	3単位	心理実践実習Ⅰ
心理実践実習Ⅱ	3単位	心理実践実習Ⅱ
心理実践実習Ⅲ	3単位	心理実践実習Ⅲ
心理実践実習Ⅳ	3単位	心理実践実習Ⅳ

※ 隔年開講

公認心理師の受験資格取得を希望する方は、公認心理師に関するガイダンスに参加すると共に、下記の他、KOANの掲示や本研究科ホームページのお知らせに注意してください。

大阪大学人間科学部公認心理師プログラムwebサイト

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/kouninshinrishi/>

厚生労働省公認心理師Webサイト

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>

認定心理士

「公益社団法人日本心理学会認定心理士（以下、認定心理士と呼びます）」は、公益社団法人日本心理学会がその資格取得希望者に対して、“この人物は心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術とを正規の課程において修得している”ということを確認する資格であり、現在において、同学会が心理学に関して認定している唯一の資格です。

資格取得の基礎条件は、四年制大学を卒業し学士の学位を取得もしくは大学院修士課程を修了し修士の学位を取得していることに加え、認定資格細則が指定する心理学関係の所定の単位を修得していることなどです。その所定の単位は、心理学概論や心理学研究法、心理学実験実習等の基礎科目、および知覚心理学や教育心理学、社会心理学等の選択科目を中心に構成され、総単位は36単位以上が求められます。詳細については、公益社団法人日本心理学会のホームページを参照してください。

公益社団法人日本心理学会のホームページ <https://psych.or.jp>

臨床心理士（一種）

臨床心理士は、大学院教育で得られる高度な心理学的知識と技能を用いて、臨床心理査定（心理テスト）、臨床心理面接（心理療法・心理カウンセリング）、臨床心理学的地域援助およびそれらの研究調査等の業務を行います。

臨床心理士の資格は、文部科学省の認可を受けた「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」によって認定されます。資格審査は、書類審査、筆記試験、および口述審査により、原則として年1回行われます。平成13年度以降の入学者は、本研究科臨床心理学研究分野の博士前期課程を修了後、臨床心理士の資格試験を受けることが出来ます。

【修得が必要な授業科目と単位について】

「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」が指定している必修科目および選択必修科目は、次のとおりです。必修科目は①～⑤すべてにつき括弧内の必要単位以上を、さらに選択必修科目はA～E群すべてにつき各2単位以上を、該当する本研究科の開講科目から修得しなければなりません。

「日本臨床心理士資格認定協会」が指定する科目		左記に該当する本研究科の開講科目
必修科目	① 臨床心理学特論（4単位）	臨床心理学特講Ⅰ（2単位） 臨床心理学特講Ⅱ（2単位）
	② 臨床心理面接特論（4単位）	臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）（2単位） 臨床心理面接特講Ⅱ（2単位）
	③ 臨床心理査定演習（4単位）	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）（2単位） 臨床心理査定演習Ⅱ（2単位）
	④ 臨床心理基礎実習（2単位）	臨床心理基礎実習Ⅰ（2単位） 臨床心理基礎実習Ⅱ（2単位）
	⑤ 臨床心理実習（2単位）	臨床心理実習Ⅰ（2単位） 臨床心理実習Ⅱ（2単位） 臨床心理学特定演習Ⅰ（2単位） 臨床心理学特定演習Ⅱ（2単位）

「日本臨床心理士資格認定協会」が指定する科目		左記に該当する本研究科の開講科目
選択必修科目A群	心理学研究法特論	—
	心理統計法特論	行動統計科学特講Ⅰ（2単位） 行動統計科学特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特講（2単位）
選択必修科目B群	人格心理学特論	人格心理学特講（2単位）
	発達心理学特論	比較発達心理学特講（心理的アセスメントに関する理論と実践）（2単位）
	学習心理学特論	—
	認知心理学特論	応用認知心理学特講Ⅰ（2単位） 応用認知心理学特講Ⅱ（2単位）
	比較行動学特論	—
	教育心理学特論	教育分野に関する理論と支援の展開（2単位）
選択必修科目C群	社会心理学特論	社会心理学特講Ⅰ（2単位） 社会心理学特講Ⅱ（2単位）
	人間関係学特論	—
	社会病理学特論	—
	家族心理学特論	—
	犯罪心理学特論	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（2単位）
	臨床心理関連行政論	—
選択必修科目D群	精神医学特論	—
	心身医学特論	—
	神経生理学特論	—
	老年心理学特論	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ（福祉分野に関する理論と支援の展開）（2単位）
	障害者（児）心理学特論	—
	精神薬理学特論	—
選択必修科目E群	投映法特論	—
	心理療法特論	心理療法特講（2単位）
	学校臨床心理学特論	—
	グループ・アプローチ特論	—
	臨床心理地域援助特論	—

具体的にどのような授業科目や臨床経験が規定に適合するのか知りたい場合は、「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」監修の「臨床心理士になるために（誠信書房）」を参照してください。

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 <http://fjcbcp.or.jp>

社会調査士・専門社会調査士

社会調査士・専門社会調査士は、社会調査に関する教育制度を整備し、人材育成を組織化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかるために、2008年に「一般社団法人社会調査協会」を設立し、社会調査士と専門社会調査士の認定を始めました。

社会調査士は、学部卒業レベルの資格であり、専門社会調査士は、大学院修士課程修了レベルの資格です。

社会調査士を取得するためには、大阪大学人間科学部・人間科学研究科の認定科目を「一般社団法人社会調査協会」の定めた規定にあわせて修得し、卒業・修了と同時（卒業・修了後は毎年3月末の申請受付時）に資格申請をしなければなりません。資格取得希望者は、必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページに公開されている大阪大学人間科学部の各年度の認定科目一覧を参照し、自身で入力してください。

専門社会調査士を取得するためには、以下の条件を満たすことが必要とされています。

- 1) 社会調査士の資格を有すること
- 2) 所定の科目の単位を修得すること
- 3) 社会調査結果を用いた修士論文を執筆すること

専門社会調査士についても、大阪大学人間科学研究科の認定科目は修得年度によって異なります。必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページを確認し、自身で入力してください。

一般社団法人社会調査協会のホームページ <http://jasr.or.jp>

Web上では、掲載を省略させていただきます。

Web上では、掲載を省略させていただきます。

時間割表やシラバスは、大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部
ホームページ／在学生の情報へ

<https://www.hus.osaka-u.ac.jp>

阪大(はんだい) 人科(じんか)



大阪大学大学院人間科学研究科 大阪大学人間科学部

〒565-0871 吹田市山田丘 1-2 電話 06(6877)5111(代表)

